



第3次 本部町観光振興基本計画

～持続可能なもとぶ観光の推進に向けて～

八重岳の新緑



瀬底豊年祭（獅子舞）



沖縄美ら海水族館



伊豆味豊年祭（長伊平屋節）

令和2年3月

本部町

目次

序章 はじめに	1
第1章 もとぶ観光の現状と課題.....	2
第2章 観光振興の目標	10
第3章 重点プロジェクト	16
第4章 施策展開.....	27
第5章 計画の推進に向けて.....	36
参考資料	38

序章 はじめに

1 計画策定の目的

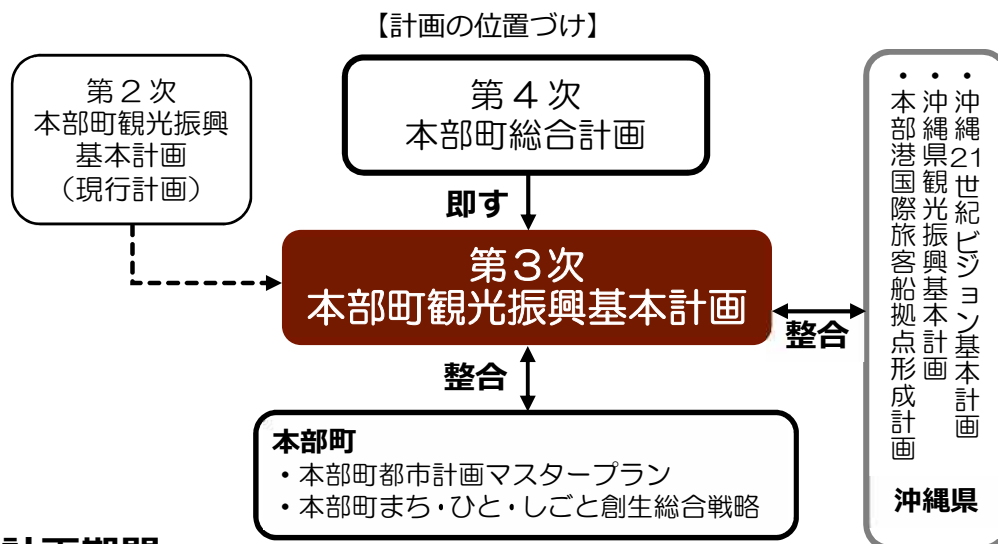
本部町の観光振興に関する取組み（以下「もとぶ観光」という）は、平成 21 年度に策定された「第 2 次観光振興基本計画」のもと、観光協会等との連携により各種観光施策に取り組んできた。また、平成 27 年度には、町の将来像を描き、長期的かつ総合的なまちづくりの目標を示した第 4 次本部町総合計画（将来まちづくり像：太陽と海と緑—観光文化のまち）を策定しており、地域力を活かした観光の高度化を目標とした各種観光施策を位置づけている。このような中、インバウンド市場の急速な拡大等を背景として、町を訪れる観光入込客数も年間 500 万人の大台を超え、今後も増加が見込まれている。

そのため、こうした状況の変化を踏まえつつ、移り変わりの早い観光ニーズの変化に適切に対応した今後のもとぶ観光の指針として、また、その取組みに必要な具体的な施策を掲げた計画として「第 3 次本部町観光振興基本計画」を策定するものである。

※「もとぶ観光」：本部町の観光振興の PR に向け、平易なひらがな表記で町の観光振興の取組みを定義

2 計画の位置づけ

第 3 次本部町観光振興基本計画は、町の上位計画である第 4 次本部町総合計画の観光における分野計画として位置づける。



3 計画期間

第 3 次本部町観光振興基本計画の計画期間は以下の通りとする。

計画期間：2020年4月～2030年3月（10年間）

ただし、大規模プロジェクトの発生など、もとぶ観光を取り巻く情勢の変化等に応じて柔軟に対応するため、必要に応じて適宜見直しを行うものとする。

第1章 もとぶ観光の現状と課題

1 もとぶ観光を取り巻く環境

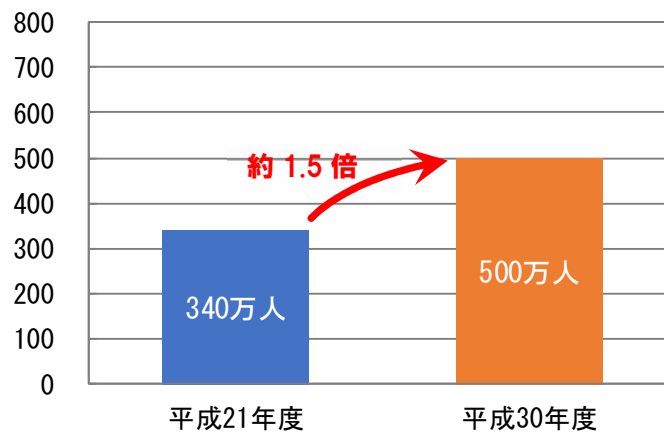
各種調査結果により、観光客の動向など、もとぶ観光を取り巻く環境について整理する。

- 観光客数は年間約500万人。うち約3割が外国人
- 本部港が国際クルーズ拠点に位置づけ

(1) 観光客・宿泊客

- ・観光客数は年間約500万人。10年間で約1.5倍

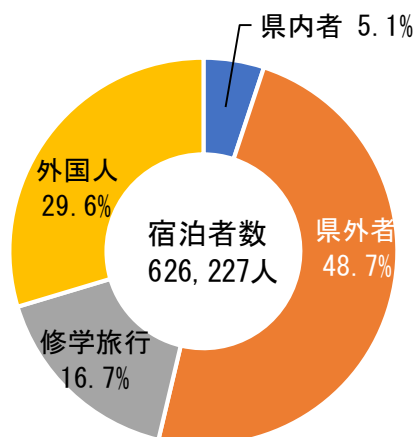
【本部町への観光入域者数（H21-H30）】



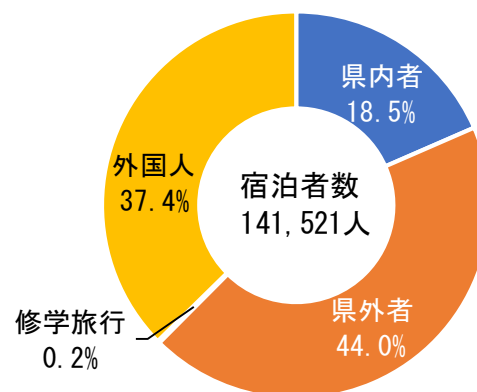
- ・宿泊客は、年間約78万人（ホテル約63万人、民宿・ペンション約14万人）。うち約3割が外国人観光客

【本部町への宿泊者数】

(ホテル (H30))



(民宿・ペンション (H30))



出典：本部町企画商工観光課

（２）受け入れ環境

- ・本部港が**国際クルーズ拠点**に位置づけられ、沖縄県を中心に受入環境整備を推進

【拠点形成に向けて取り組む事業】

（国際旅客船取扱埠頭高度化事業）

- ・岸壁等の港湾施設整備（沖縄県）
- ・旅客ターミナルビルの整備（ゲンティン香港）



【係留施設の優先的な利用】

供用開始後、ゲンティン香港は優先的に旅客ターミナルビルの利用予約が可能となる。

- ・優先予約可能期間 15 年間
- ・最大年間予約日数 150 日

出典：沖縄県本部港国際旅客船拠点形成計画（2018.1/沖縄県）

2 観光客の動向

各種調査結果により、観光客の特性など、もとづき観光の実態について整理する。

- 町内への来訪は、美ら海水族館目的が中心
- アクティビティ・体験に町内滞在増加への期待

(1) 来訪者・宿泊者アンケート調査

① 旅行の楽しみ

- ・「観光地巡り」「食を楽しむ」が多数
- ・宿泊者は宿泊日数が長いほど「海のアクティビティ体験」を楽しみにする傾向
- ・外国人は「文化体験」を楽しみにする傾向

② 目的地・宿泊地

- ・目的地は、「美ら海水族館」、「沖縄県」が多数。宿泊日数が長いほど本部町が増加
- ・宿泊の理由は「美ら海水族館に近い」が約5割

③ 来訪回数

- ・外国人は約 8 割が初来訪
- ・国内観光客は初来訪とリピーターが同程度

④ 滞在期間

- ・町訪問者の約7割が日帰り

⑤ 注力すべきこと

- ・自然の豊かさ、公共交通利便性、キャッシュレス・Wi-fiの順。外国人からは特に「Wi-fi環境の充実」「キャッシュレス化」のニーズが高い

⑥ 必要な観光地域づくり

- ・景観の保全、飲食店の増加

⑦ 必要な観光サービス

- ・「モデルコース」、「イベント・祭り」、「体験メニュー」等、手軽な観光体験

出典：来訪者・宿泊者アンケート（2019/本部町）

(2) レンタカープロープ調査

① 立ち寄り箇所

- ・「美ら海水族館」中心の来訪、1箇所のみでの来訪が多数
- ・本部町では海洋博公園、備瀬、今帰仁村では古宇利島、名護市ではパイナップルパーク周辺の立ち寄りが多い

② 立ち寄り時間

- ・海洋博公園やビーチのある瀬底、備瀬で長く滞在

出典：レンタカープロープ調査（2019/本部町）

3 町民・事業者の意識

各種調査結果により、町民・事業者が思う観光への不安や将来の姿など、もとづいて観光への意識について整理する。

- 町民・事業者は、急増するインバウンド対応に不安や課題
- 将来の姿は、人とのつながりを大切にすることへの意識が高い

(1) 町民・事業者アンケート調査

① 町民の意見

- ・観光客の交通や生活マナーを懸念

② 事業者の意見

- ・約5割が観光の経済効果を実感できていない
- ・外国語対応やキャッシュレス、人材確保に課題

出典：町民・事業者アンケート調査（2018/本部町）

(2) 町民意見交換会

① 観光客受け入れの際に大事にしたいこと

- ・自然景観：自然の美しさ、将来の子供たちのために残す
- ・おもてなし：笑顔、おもてなし、また来たいと思ってもらえるまち
- ・連携・つながり：人と人とのつながり、宿泊との連携
- ・町民が住みたいと思えるまち：地元の思いを大切に、一生住みたいまちに
- ・地元が稼ぐ：地域でお金を回す

② 目指すまちの姿についての意見

「住民と観光客が共に楽しめるまち」

- ・住民が生活するうえで「快適」
- ・天候に左右されない観光
- ・住民と観光客が会話する機会、仕組み

「何度も訪れたくなるまち」

- ・観光客が帰ってきたくなるまち
- ・地域住民による声掛けがあるまち
- ・海の自然でリラックスができるまち
- ・一人一人に合わせた「カスタマイズ観光」

出典：町民意見交換会（2019/本部町）

4 これまでの施策の検証

「第2次本部町観光振興基本計画」（平成21年3月策定）について、検証を行う。

- 主に交付金を活用し、商品開発、イベント等を実施
- 関係機関が連携した取り組みや財源確保に課題

（1）主な施策

基本計画においては、5つの基本目標を掲げており、掲げられた基本目標に対して以下のような施策を実施している。

① 美ら海の町

目標：県外のみならず県内からも訪れてみたい観光地として認知度を向上させる

施策：観光協会ホームページの情報更新、名桜大学との包括連携協定締結等の実施

② もとブランド

目標：ここでしか味わえないオンリーワンの魅力づくり・ブランド化を目指す

施策：特産品や体験・周遊型の観光商品の開発、伝統文化・ナイトイベントの実施（交）

③ あちこち巡り

目標：交通利便性を高め、豊富な観光資源のネットワーク化・有効活用をはかる

施策：やんばる急行バス、沖縄エアポートシャトルバスの開業、本部港の国際クルーズ拠点指定

④ いやしとおもてなし

目標：リピーター・ファン獲得のため、地元あげてのおもてなし意識を醸成する

施策：観光地域づくりのセミナーやワークショップ、モニターツアーの実施（交）
観光従業者向け英語講座、民泊講習会・体験学習の実施（交）

⑤ チーム“もとぶ”

目標：みんなにメリットのある観光を目指した推進体制をつくる

施策：観光協会の組織体制の拡充（交）

※（交）：沖縄振興特別推進交付金を活用

(2) 今後の課題

施策実施による今後の課題としては、以下のようなことがあげられる。

① 美ら海の町

- ・関係団体、関係事業者との連携による**情報機能の集結**
- ・記念公園や大学との**連携の取組み**の具体化

② もとブランド

- ・作り手のストーリーを含めた**戦略的なプロモーション**
- ・**外国人観光客への対応**も含む人材育成
- ・イベント**開催場所の環境改善**や町内外への**情報発信**
- ・雨天時の客数減少に対応した**環境整備**や誘客促進に向けたコンテンツの充実

③ あちこち巡り

- ・本部町を絡めた**観光ルート**づくりや観光客への周知
- ・バス会社、海運会社、旅行会社等と連携した**まちなかへの観光客の誘導**
- ・クルーズ船の寄港の急増に対する**ハード・ソフト対策**

④ いやしとおもてなし

- ・地域との連携による**情報収集及び広報等**の取組み
- ・地域資源保全への住民理解とモニターツアーの継続
- ・**講座の継続的な実施**の検討
- ・基本的な**受入体制**の構築

⑤ チーム“もとぶ”

- ・機動的に活動できるような**組織体制**づくり

5 もとぶ観光の問題点と優位点

もとぶ観光の動向、実態調査、これまでの施策の検証結果から、以下のようなもとぶ観光の問題点及び優位点があげられる。

問題点	優位点
1. 観光資源が活かされていない ・美ら海水族館を目的とした来訪者に対する町内への誘導ができていない ・地域住民が観光資源を認識していないという意見がある ・観光資源を活かした観光地域づくり等の取組みはこれからの部分が多い	・美ら海水族館の集客力 ・誇れる自然、食、歴史文化等の豊富な資源 ・「観光文化のまち」という将来像が町民と共有されている
2. 増加・多様化する観光客への対応 ・更なる増加が想定される外国人観光客に対し、外国語対応等の情報発信や受入環境等に遅れが生じている ・クルーズ船を含めインバウンドに対応した広域連携等の取組みはこれからの部分が多い	・本部港が国際クルーズ拠点に ・外国人観光客が安定して訪れる
3. 地域産業の競争力の弱さ ・美ら海水族館中心の短い滞在 ・本部町全体が目的地になっていない（知名度が低い） ・インバウンド対応も含め観光の人手・人材等が不足	・美ら海水族館の知名度の高さ ・初来訪の観光客が安定して訪れる

6 もとぶ観光の課題抽出

もとぶ観光の問題点と優位点を総合的に勘案し、もとぶ観光に関する4つの今後の取り組み課題を整理する。

1 : 町民全体のおもてなし力の向上

- ・「観光文化のまち」として、町民一丸となった観光振興をはかるため、町民全体のおもてなし力の向上をはかることが重要である。

2 : 地域の観光資源を活かしたプロモーション

- ・町内での観光消費を向上させ、地域産業の競争力を高めるため、自然・食・歴史文化等の魅力的な観光資源を掘り起こし、磨き上げ、効果的に発信することが重要である。

3 : 美ら海水族館を持つ優位性を最大限に活かす

- ・観光客の町内への滞在促進をはかるため、毎日多くの観光客であふれる美ら海水族館の知名度・集客力を最大限に活かした観光振興に取り組むことが重要である。

4 : インバウンド等に対応した受入環境・広域連携の強化

- ・増加、多様化する観光客に対応し、持続可能な観光地形成をはかるため、受入環境や広域連携を強化することが重要である。

第2章 観光振興の目標

1 基本理念

本部町のまちづくりの最上位の指針である「第4次本部町総合計画」では、第1次計画から継承され、町民にも深く浸透し、支持されてきた普遍性の高いまちの将来像として、「太陽と海と緑－観光文化のまち」が掲げられている。この将来像は、海、山の自然の恵みと固有の文化に根ざしつつ、自然の摂理はもとより、人間性を大切にする姿勢を基調とした観光文化のまちの実現を目指すものとして定義されている。

本部町の将来まちづくり像

太陽と海と緑－観光文化のまち

また、総合計画において、宿泊率の向上や町内での滞在時間を延ばし、経済波及効果が高いものとなるよう自然環境等独自の資源を活用することを町の観光にかかわる課題として示されている。

そのため、もとぶへの観光客の滞在時間を延ばし、経済波及効果を高めるべく、町民にも浸透し、支持されてきた「将来まちづくり像」を基調として、観光振興の基本理念を以下のとおり掲げる。これは、もとぶが誇る「海」、「山」の自然の恵みや固有の文化を活かして地域資源を磨き、人のつながりを大切にして観光客への最大限のおもてなしを提供することを目指すものである。

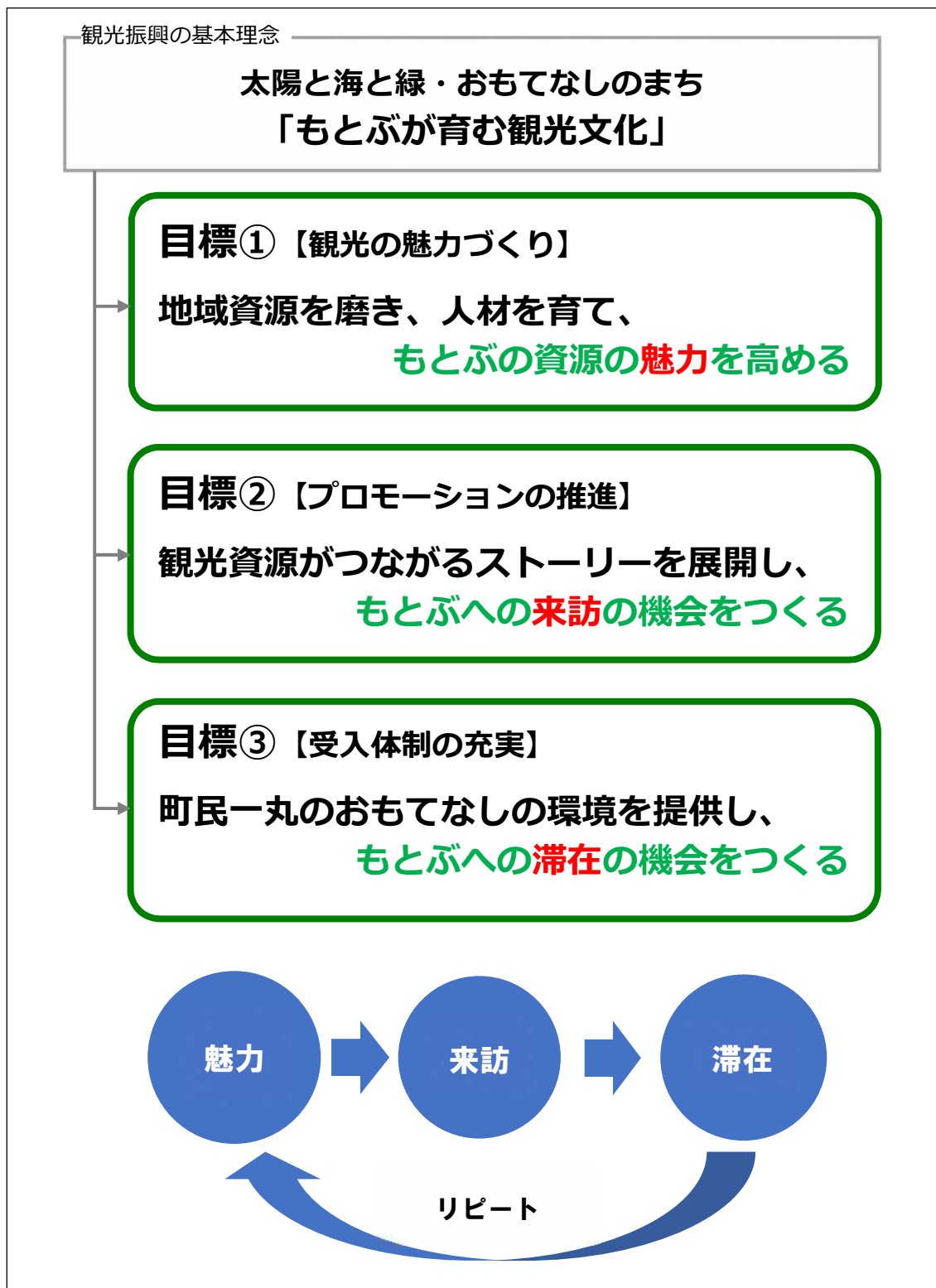
観光振興の基本理念

太陽と海と緑・おもてなしのまち

「もとぶが育む観光文化」

2 基本目標

「基本理念」を実現していくため、以下の3つの「基本目標」を掲げる。



3 数値目標

基本目標を達成する指標として、「魅力」、「来訪」、「滞在」、「リピート」の視点により、以下のように設定する。

指標	従前値	目標値 (2030)	備考
指標① 魅力 町を紹介したい 人の割合	来訪者 70% (2019)	 上向き	従前値： ・来訪者・宿泊者アンケート (2019)
	町 民 30% (2018)	 上向き	従前値： ・町民アンケート (2018)
指標② 来訪 観光案内所 訪問者数	2,827 人 (2018)	4 千人/年	従前値： ・観光協会集計 (2018) 目標値： ・年 90 人増で設定
指標③ 滞在 定員稼働率	ホテル 51% (2009-2018)	55% (10 年平均)	従前値： ・観光協会集計 (2009-2018) ・過去 10 年平均 目標値： ・沖縄県平均値 (2009-2018)
	民宿・ペンション 21% (2009-2018)	25% (10 年平均)	
指標④ 滞在 客室稼働率	ホテル 69% (2009-2018)	70% (10 年平均)	従前値： ・観光協会集計 (2009-2018) ・過去 10 年平均 目標値： ・収容人数が増加しても稼働率維持に設定
指標⑤ リピート 町を目的地と する人の割合	7% (2019)	10%	従前値： ・来訪者・宿泊者アンケート (2019) 目標値： ・県民来訪者の町目的地割合と同水準に設定

4 観光ゾーニング

都市計画他、関連施策と連携をはかりながら、魅力ある観光地域づくりの推進をはかるため、重点的な機能を担うエリア、及びその観光機能や観光の楽しみ方を設定する。



本部港周辺（海のゲートゾーン）



八重岳（山のゾーン）



アジマーもとぶ（中心市街地ゾーン）



海洋博公園（観光拠点ゾーン）

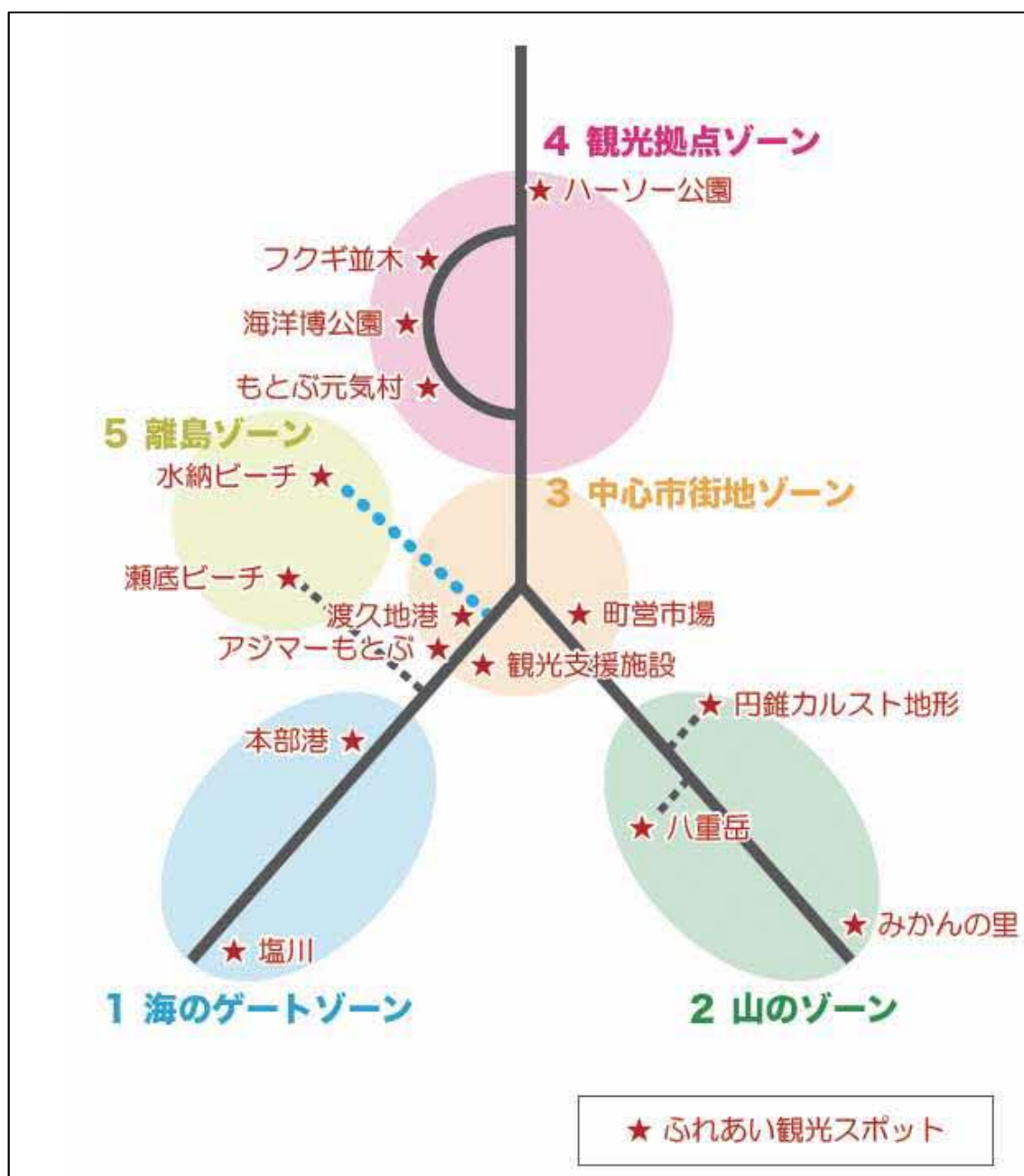


瀬底島（離島ゾーン）

【観光ゾーニング区分】

ゾーン区分	観光機能	観光の楽しみ方
1. 海のゲート ゾーン	名護市からの海側観光ルートとして本部港を中心としたもとぶの“海岸線”を楽しむゾーン	・海風を感じてドライブしながら、塩川や本部港、休憩スポット等に立ち寄り、もとぶへの訪れを感じる ・海のアクティビティ体験や海沿いでの飲食を楽しむ
2. 山のゾーン	名護市からの山側観光ルートとして、そば街道を中心としたもとぶの“山なみ”や“食”を楽しむゾーン	・沖縄そばの名所「本部そば街道」でカツオだしが贅沢に使われた沖縄のそばを食べ ・丘の上の高台からの海や島の絶景を堪能できるロケーションでランチを楽しむ ・みかんの里で家族や友達とみかん狩りを楽しみながら、採れたてのみかんを食べ ・日本の季節を先取りし、「ひとあし、お咲きに」をキャッチフレーズとした桜まつりや新緑を八重岳で楽しむ
3. 中心市街地 ゾーン	中心的市街地として、渡久地港と町営市場を中心としたもとぶの“まち”を楽しむゾーン	・渡久地港で水納島との入出港を眺めながら港沿いを探索、散歩する ・長年町民に親しまれている町営市場「まちぐわー」。懐かしい雰囲気を感じながら飲食や買い物を歩いて楽しむ ・もとぶの夜は、アジマーもとぶで、夕市に参加。観て、食べて、飲んで、買ってもとぶを堪能する
4. 観光拠点 ゾーン	観光拠点として、海洋博公園、備瀬フクギ並木を中心としたもとぶでの“滞在”を楽しむゾーン	・海洋博公園やもとぶ元気村等で、豊かな自然や歴史文化体験をはじめ、巨大ジンベエザメにイルカたちとふれあい、沖縄の海を見て体験して楽しむ ・田園風景が広がる田空の駅ハーソー公園で、農業の収穫体験や散策を楽しむ ・海洋博公園や備瀬のフクギ並木を中心に海岸や公園やフクギ並木を徒歩や自転車で散策して楽しむ
5. 離島 ゾーン	離島の特性を活かし、水納島、瀬底島を中心とした“島旅”を楽しむゾーン	・船や橋で海を渡り、透明度抜群の海と海を活かしたアクティビティ体験を満喫する ・ゆったりとした島時間を感じながらのんびりと散策して楽しむ
6. ふれあい観 光スポット	観光客との“ふれあい”の場となる観光スポット	・各観光スポットの特性を活かし、地元民と観光客が憩い・くつろぎながら交流を楽しむ

【観光ゾーニング概念図】



第3章 重点プロジェクト

基本目標の達成に向けて、特に重点的な対応がもとめられる施策について、重点プロジェクトとして位置づける。

【重点1】町民総ぐるみのおもてなしプロジェクト

【展開イメージ】



協賛企業、団体等との連携による“タウンプロモーション”を柱に、もとぶブランドの創出や観光意識の醸成をはかりながら、**事業者・町民**がそれぞれの立場で自然に**観光PR**を行う「**町まるごと観光案内所**」の形成をはかる

【重点施策】

- 1-1. 町民総ぐるみのタウンプロモーション
- 1-2. 人材育成と合わせた地域の観光意識の醸成
- 1-3. 地域ブランドの発掘・活用

【重点1】町民総ぐるみのおもてなしプロジェクト

1-1. 町民総ぐるみのタウンプロモーション

◇タウンプロモーション事業

- タウンプロモーションに協賛する企業、団体等を募り、町民総ぐるみのタウンプロモーションを推進する。

【具体的な取組み】

- ・タウンプロモーション協賛企業・団体の募集及び企業・団体との意見交換会の実施
- ・協賛企業、団体等に対する町又は観光協会のホームページ、イベント、ふるさと納税制度活用等によるプロモーションの実施
- ・協賛企業、団体等との協働による景観美化活動の推進

（協賛内容例）

- ・もとぶ産地品でのウェルカムドリンクの提供
- ・ロゴデザインの店頭・商品表示
- ・パンフレット設置や観光案内ガイド等による町の魅力発信
- ・協賛特別割引サービスの実施
- ・町イベントへの出店・販売等
- ・店舗、住宅前の植栽・美化
- ・地域ボランティアガイドの実施



【推進体制】

主な実施主体	町	○	
	観光団体	○	観光協会、商工会、JA、漁協組合
	事業者	○	町内企業
	町民	○	地域団体
実施時期		短期、以降各年継続実施	

【重点1】町民総ぐるみのおもてなしプロジェクト

1-2. 人材育成と合わせた地域の観光意識の醸成

◇体験型観光プログラム開発事業

- 町民、観光事業者、小・中学校、高等学校等との連携の下、観光客が地域の自然、文化、歴史と触れ合える体験型観光プログラムの開発・展開をはかる。

【具体的な取組み】

- ・町民、事業者、小・中学校、高等学校等との意見交換会の実施



- ・もとぶの自然、暮らし、歴史文化等をテーマとした観光教育体験プログラムの開発
- ・多機能型観光交流施設を活用した屋内体験型プログラムの開発
- ・小・中学校の総合的な学習の時間、高等学校の総合的な探究の時間等における体験活動の実施

【推進体制】

主な実施主体	町	○	
	観光団体	○	観光協会、商工会、JA、漁協組合
	事業者	○	町内企業
	町民	○	町内小・中学校、高等学校、町内在住者
実施時期		短期、以降各年継続実施	

【重点1】町民総ぐるみのおもてなしプロジェクト

1-3. 地域ブランドの発掘・活用

◇もとぶブランド創出事業

- 商工業、観光業、農業、水産業等の地域産業力と特色ある地域資源を活用してもとぶブランドのイメージ確立をはかる。

【具体的な取組み】

- ・特産品、町産品、工芸品、自然・景勝地・民俗芸能・歴史文化等に関するもとぶブランドの認定を、選定委員会により実施

- ・ブランド認定品を町又は観光協会のホームページでの紹介、イベントでの表彰、ふるさと納税制度活用等によるプロモーションの実施



(本部町役場)

もとぶの特産品

- ・もとぶブランドに関わるロゴデザインの開発や魅力発信用のパンフレット作成
- ・海洋博公園での町民限定の特別イベント実施

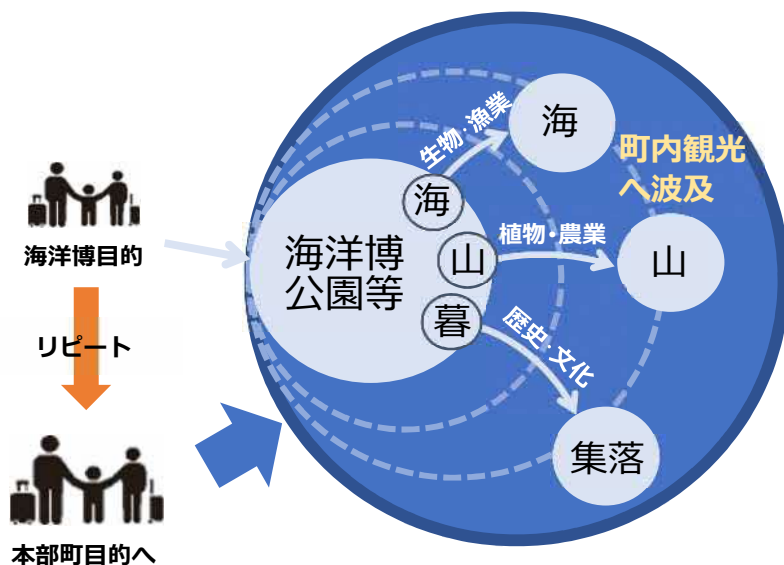
【推進体制】

主な実施主体	町	○	
	観光団体	○	観光協会、商工会、JA、漁協組合、美ら島財団
	事業者	○	町内事業者
	町民	—	
実施時期		短期、以降各年継続実施	

【重点2】 海洋博公園と連携したもとぶ観光のストーリーづくり

【展開イメージ】

町まるごと海洋博公園



“海洋博公園とのコラボレーション”を柱に、海洋博公園周辺の展示物や人材、技術を活かし、海洋博公園等から「もとぶにつながるストーリー」を町内観光に波及させ、もとぶ全体を舞台とした「町まるごと海洋博公園」の形成をはかる

【重点施策】

2-1. 海洋博公園周辺の財産を活かしたもとぶ観光の魅力づくり

2-2. 海洋博公園を起点とした魅力発信

【重点2】海洋博公園と連携したもとぶ観光のストーリーづくり

2-1. 海洋博公園周辺の財産を活かしたもとぶ観光の魅力づくり

◇海洋博公園、もとぶ元気村、ハーソー公園とのコラボレーション事業

- 海洋博公園やもとぶ元気村、ハーソー公園の展示物や人材・技術と、町内の食材・人材・技術等がコラボレーションした体験型商品や土産品の開発をはかる。

【具体的な取組み】

- ・海洋博公園等の展示を活かした体験メニューの開発
（（例）サンゴ礁の旅体験、航海士体験、昔の暮らし、農業収穫体験他）



- ・海洋博公園やもとぶ元気村、ハーソー公園の専門スタッフによる町内のガイドツアー商品開発
- ・美ら海ブランドでのもとぶ産加工品の開発、及び町内限定での販売
- ・海洋博公園と町内をめぐる観光モデルプランの開発
- ・ファミリー層、アクティブシニア層等、ターゲット別の滞在を促す観光商品の開発
- ・ハイサイプラザ、やんばる旅ナビ WEB サイト、美ら海アプリ等を活用したプロモーションを実施
- ・海洋博公園の専門スタッフ等による観光サポート人材バンクの整備

【推進体制】

主な実施主体	町	○	
	観光団体	○	観光協会、商工会、JA、漁協組合、美ら島財団
	事業者	○	町内事業者
	町民	—	
実施時期		5 年以内	

【重点2】海洋博公園と連携したもとが観光のストーリーづくり

2-2. 海洋博公園を起点とした魅力発信

◇海洋博公園起点の魅力発信事業

- 海洋博公園の集客力を活かし、観光スポットや食、交通、宿泊など、観光客が求める町の情報を提供できるよう、観光案内機能の強化をはかる。

【具体的な取組み】

- ・海洋博公園内での観光案内の機能拡充
（（例）町内観光（体験・周遊）・イベント・宿泊案内、特産品展示他）



- 町のイメージの向上や定着化をはかるため、メディアへの働きかけを積極的に行い、美ら海水族館の知名度を活かした誘客を促進する。

【具体的な取組み】

- ・海洋博公園と連携した専門雑誌、旅行番組等のメディアへの働きかけ

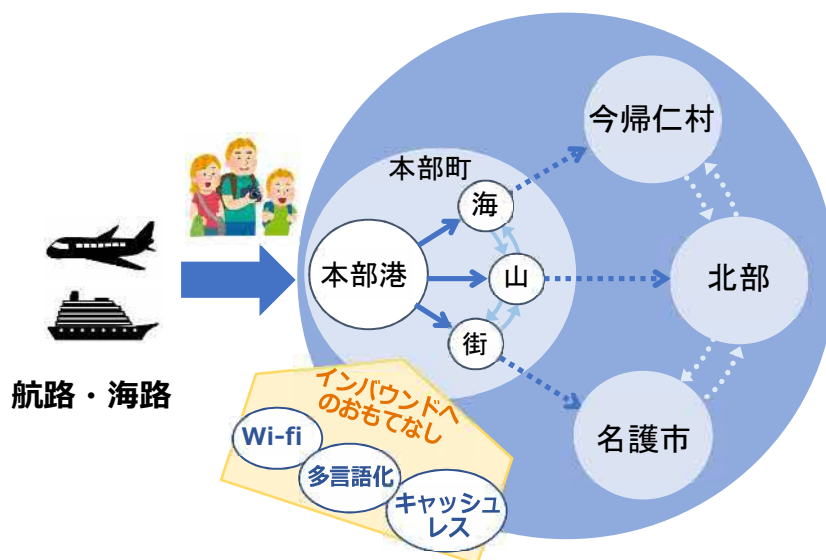
【推進体制】

主な実施主体	町	○	
	観光団体	○	観光協会、商工会、美ら島財団
	事業者	—	
	町民	—	
実施時期		5年以内、以降継続実施	

【重点3】インバウンド歓迎プラン

【展開イメージ】

やんばる観光の「新ゲート」



本部港をやんばる観光の「新ゲート」として、クルーズ船で訪れるインバウンド観光客へのおもてなしによって、もとぶの海や山、街での食や買い物、体験への回遊をはかるとともに、広域連携により周辺市町村も含めたもとぶ観光の推進をはかる

【重点施策】

3-1. ソフト・ハード一体によるインバウンド受入環境整備

3-2. 広域連携によるインバウンド受入 PR・マナー啓発

【重点3】インバウンド歓迎プラン

3-1. ソフト・ハード一体によるインバウンド受入環境整備

◇インバウンド受入整備事業

- Wi-fi 環境ついて、町内飲食店や観光施設、商業施設における整備を促進する。

【具体的な取組み】

- ・沖縄県等と連携した助成等による Wi-fi の民間施設への導入促進
- ・観光案内板の充実（Wi-fi 表示）

- 案内サインや観光パンフレット等の多言語表記の充実をはかるとともに、既存店舗等における消費税免税制度の活用を促進する。

【具体的な取組み】

- ・多言語表記の充実
- ・消費税免税制度活用の勉強会

- 関係事業者や観光協会等と連携し、キャッシュレス事業を推進する。

【具体的な取組み】

- ・事業者及び町民向けキャッシュレス決済講習会

- 「外国人対応人材育成事業」を実施し、今後も増加が見込まれるインバウンドの対応に特化した人材の資質向上を促進する。

【具体的な取組み】

- ・外国人対応人材育成事業の実施

【推進体制】

主な実施主体	町	○	
	観光団体	○	観光協会、商工会
	事業者	—	
	町民	—	
実施時期		短期、以降継続実施	

【重点3】インバウンド歓迎プラン

3-2. 広域連携によるインバウンド受入 PR・マナー啓発

◇インバウンド受入に関する広域連携事業

- 北部広域圏の関係市町村等で連携し、クルーズ船観光客を含めた広域的な観光 PR を推進する。特に、町に来訪する多くの観光客が目的地とする海洋博公園の集客力を活用し、認知度及びまちのイメージを向上させるための積極的な情報発信をはかる。

【具体的な取組み】

- ・観光キャラバン等の実施
- ・海洋博公園での地域特産品の紹介・観光 PR

- 北部広域圏の関係市町村等で連携し、生活習慣等の違いに起因するトラブルを防ぐため、関係事業者等に日本でのマナーや習慣についての啓発活動を促進する。

【具体的な取組み】

- ・マナー啓発の意見交換会の実施

【推進体制】

主な実施主体	町	○	
	観光団体	○	観光協会、商工会、美ら島財団
	事業者	—	
	町民	—	
実施時期		短期、以降継続実施	

第4章 施策展開

【施策の体系】



※重点プロジェクトにおいて推進する取組みは【重点】で表記

目標① 【観光の魅力づくり】

地域資源を磨き、人材を育て、

もとぶの資源の魅力を高める

施策1 もとぶの魅力を満喫できるニューツーリズムの推進

① グリーンツーリズム・ブルーツーリズムの振興

- ・体験型農業や農村景観を活かし、グリーンツーリズムの展開をはかる。また、体験漁業へ積極的に取組み、ブルーツーリズムの展開をはかる。

② 健康保養・滞在型観光プログラムの創出

- ・医療機関と連携して長寿・健康増進を目的としたヘルスツーリズム等の保養型観光を創出する。
- ・もとぶ元気タ市におけるコンテンツの充実をはかるとともに、さらなる夜型観光創出を検討する。

③ 地域住民の参画による体験・交流型観光プログラムの展開【重点1】

- ・町民、観光事業者、小中学校、高等学校等との連携の下、観光客が地域の自然、文化、歴史と触れ合える体験型観光プログラムの開発・展開をはかる。

④ 海洋博公園周辺の財産を活かしたもとぶ観光の魅力づくり【重点2】

- ・海洋博公園やもとぶ元気村、ハーソー公園の展示物や人材・技術と、町内の食材・人材・技術等がコラボレーションした体験型商品や土産品の開発をはかる。

施策2 美しい景観や恵まれた自然資源を活かした観光拠点の磨き上げ

① 「みなとオアシス」拠点機能の強化

- ・地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化のため、「みなとオアシス」の拠点機能の強化を推進する。
- ・特に、クルーズ船の受入環境を改善するため、旅客ターミナル整備やクルーズ旅客の円滑な周遊を可能とするための環境整備を推進する。

② 自然資源を活用した観光拠点の形成

- ・八重岳周辺の観光客の快適性向上のため、観光施設の整備を推進する。
- ・カルスト地域景観に配慮した維持管理に努め、貴重な自然を活用した公園の整備を推進する。

③ 観光拠点施設の整備・活用促進

- ・研修、体験、情報提供・発信機能をもった新たな観光施設の形成により、雇用の創出及び町内宿泊客の増加をはかる。
- ・もとぶかりゆし市場や田空の駅ハーソー公園等について、観光拠点として施設の整備改善をはかり、誘客を促進する。

施策3 観光振興と環境の保全を両立させる持続可能な観光地域の形成

① 観光ゾーニングによる観光地域の誘導

- ・都市計画他、関連施策と連携の下、観光ゾーニングに基づき、魅力的な観光地域づくりに向けた誘導方策について検討する。

② 伝統的集落等の生活環境保全

- ・観光客が地域住民の生活空間に入り、トラブルが起きることを未然に防止できるよう、伝統的集落等における生活環境保全ルール整備、看板設置等を検討する。

③ 環境に配慮したモビリティの活用促進

- ・IoT 技術等を活用した低速で環境にやさしいグリーンスローモビリティの活用を促進する。

④ 観光地保全・利活用のための財源確保

- ・持続可能な観光地域形成のため、収益事業（広告、物販、観光商品等）や観光目的税の導入等による独自かつ安定的な財源確保のしくみについて検討する。

目標② 【プロモーションの推進】

観光資源がつながるストーリーを展開し、
もとぶへの来訪の機会をつくる

施策4 もとぶ固有の地域資源を活かしたプロモーションの推進

① タウンプロモーションの推進【重点1】

- ・タウンプロモーションに協賛する企業、団体等を募り、町民総ぐるみのタウンプロモーションを推進する。

② 地域ブランドの発掘・活用【重点1】

- ・商工業、観光業、農業、水産業等の地域産業力と特色ある地域資源を活用してもとぶブランドのイメージ確立をはかる。

③ 「自然・歴史」を活かしたプロモーションの推進

- ・東シナ海岸、カルスト地形、八重岳等の恵まれた自然資源とともに、伝統的集落、戦跡等の歴史資源を活かした振興・交流イベント等による誘客展開をはかる。

④ 「食」を活かしたプロモーションの推進

- ・観光客等のニーズを踏まえながら安定供給や品質確保ができる観光商品の開発等、観光資源としての食の活用をはかる。
- ・アセローラ、シークワサー、タンカン、そば街道等、本部町が誇る代表的な食や食材を活かし、作り手や開発ストーリーを絡めた誘客展開をはかる。

施策5 観光情報の発信・広報活動の積極的展開

① インターネットメディアを活用した情報提供機能等の整備強化【重点2】

- ・やんばる旅ナビ WEB サイト、美ら海アプリ等を活用し、関係団体、関係事業者との連携による情報機能の集結や情報発信内容の充実をはかり、来訪者の増加を促進する。

② 美ら海水族館の知名度を活かした積極的な発信【重点2】

- ・町のイメージの向上や定着化をはかるため、メディアへの働きかけを積極的に行い、美ら海水族館の知名度を活かした誘客を促進する。

③ 外国人観光客向けの積極的な PR 活動【重点3】

- ・町に来訪する多くの観光客が目的地とする海洋博公園の集客力を活用し、認知度及びまちのイメージを向上させるための積極的な情報発信をはかる。

施策6 北部広域圏で連携した広報・啓発活動の展開

① 広域連携による PR【重点3】

- ・北部広域圏の関係市町村等で連携し、クルーズ船観光客を含めた広域的な観光 PR を推進する。

② 外国人観光客等へのマナー啓発【重点3】

- ・北部広域圏の関係市町村等で連携し、外国人観光客等の生活習慣等の違いに起因するトラブルを防ぐため、関係事業者等に日本でのマナーや習慣についての啓発活動を促進する。

目標③ 【受入体制の充実】

町民一丸のおもてなしの環境を提供し、

もとぶへの滞在の機会をつくる

施策7 町民・民間との協働による魅力的な観光地域づくり

① 観光地域づくりのプラットフォームとなる体制づくり

- ・各種団体等と連携し、地域住民、事業者等を対象とした意見交換会を継続的に実施し、地域ぐるみでのおもてなし機運の醸成をはかる。
- ・各種団体等と連携し、観光客・町民・事業者向けの観光振興に関するアンケート調査を定期的な実施する。
- ・中長期的な視点から観光地域づくりに取り組む組織体制について検討する。

② 協働による景観美化活動の推進

- ・町民や事業者との協働による景観美化活動を継続して実施し、清潔感のあふれるまちを創出する。

③ 観光客の受け入れの整備支援【重点3】

- ・Wi-fi 環境について、町内飲食店や観光施設、商業施設における整備を促進する。
- ・関係事業者や観光協会等と連携し、キャッシュレス事業を推進する。
- ・地域状況に配慮された、観光客等の受け入れ施設に対する支援を推進する。

④ IT 環境の整備拡充・活用

- ・沖縄県や海洋博公園等と連携し、AI、IoT、ビックデータ等のIT 活用による新たな観光サービスの構築をはかる。

⑤ 観光危機管理に対する検討

- ・観光地における自然災害、疫病等、観光危機管理に対応するため、意見交換を実施する。
- ・観光危機管理計画を策定し、危機管理体制の整備をはかる。

施策 8 地域のガイド・リーダー等の観光人材の育成

① 専門的人材の育成【重点 2】

- ・地域の産業と観光を結びつけ、専門的な技術を有する人材を養成するほか、ガイド組織の運営、サポート体制の確立を促進する。

② 観光事業従事者の資質向上【重点 3】

- ・「外国人対応人材育成事業」を実施し、今後も増加が見込まれるインバウンド対応に特化した人材の資質向上を促進する。

③ 民泊事業の発展・向上

- ・地域資源の活用や各種団体との連携をはかり、受入民家のスキルアップを目的とする各種講習会の実施、充実した体験学習、民泊 PR を促進する。

④ 大学、高校との連携

- ・名桜大学や本部高校と連携した観光データの収集、観光商品の造成、学生・生徒目線での観光 PR 等を通じ、観光に関わる仕事の魅力を伝えるとともに、観光人材の発掘を促進する。

施策 9 観光客目線での交通・観光案内の提供

① みなとオアシス、海洋博公園からの 2 次交通の充実

- ・海洋博公園、バス会社、船舶会社等との連携・調整により、観光客や住民ニーズに対応した運航路線の充実・変更等を協議検討し、公共交通の利便性向上を促進する。
- ・みなとオアシスと海洋博公園等を結ぶ水上バスや自動運転シャトルバスの実証実験の検討を行い、公共交通機関による町内への回遊を促進する。
- ・「バス停上屋整備事業」等を実施し、停留所環境の向上をはかる。

② 分かりやすい案内サインの整備

- ・初めて町を訪れた観光客が安心して町内をめぐることができるよう、道路案内標識や主要観光地における観光案内板、トイレマップ等、関係機関と連携した整備をはかる。

③ 観光案内機能の強化【重点 2】

- ・海洋博公園の集客力を活かし、観光スポットや食、交通、宿泊など、観光客が求める町の情報を提供できるよう、観光案内機能の強化をはかる。

④ インバウンド向けの観光案内の充実【重点 3】

- ・インバウンド向けの快適な環境を提供するため、案内サインや観光パンフレット等の多言語表記の充実をはかるとともに、既存店舗等における消費税免税制度の活用を促進する。

第5章 計画の推進に向けて

1 取組みの推進体制

本計画は、本部町その他、（一社）本部町観光協会や本部町商工会、JA、本部漁業協同組合、（一財）美ら島財団等の関係団体、観光関連事業者、町民等の多様な主体が、各々の役割を果たしながら、協働の取組みを推進する。

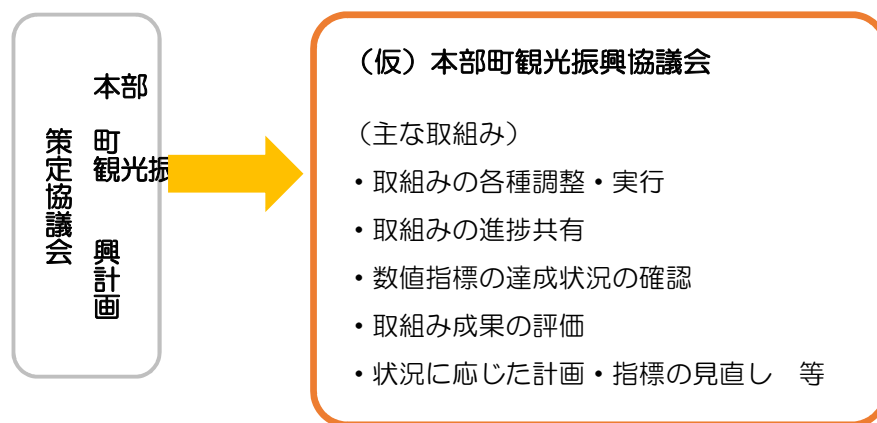
【推進主体と主な役割】

主体	主な役割
町	町は、地域が一体となった観光振興を推進するため、総合的な調整役を担うとともに、自立的に各主体が活動できるように支援を行う。 また、もとぶの魅力の発信に加え、地域の特色を活かした観光資源の創出や観光基盤の整備を行う。 さらに、国や県、近隣市町村と連携した広域的な取組みを推進するとともに、国や県の事業の促進を積極的に要請する。
観光関連団体	観光関連団体は、各団体の特性を活かしながら、観光資源の魅力づくり、プロモーション、観光地域づくり等の取組みにより、もとぶの魅力創出・誘客をはかり、地域経済の活性化をはかる。 特に観光協会は、もとぶ観光の舵取り役として、自主財源の確保に努め、多様な関係者と協働をはかりながら、観光振興の体制やしくみづくりを推進する。 また、統計データ等からもとぶ観光の動向を定期的に把握し、効果的な観光振興の取組みを推進する。
事業者	事業者は、それぞれの事業領域において町の観光振興に寄与する。 また、町や観光関連団体、町民等と連携し、観光客の誘致、地域の魅力伝達・向上等に取り組んでいく。
町民	町民自らが、もとぶの歴史や文化、観光資源などの魅力に触れ、地域に愛着と誇りを感じ、その魅力を観光客にも伝えていく。 また、観光客が訪れたくなるような地域づくりを目指す取組みや、ボランティアとして観光客と積極的に交流する取組み等を行う。

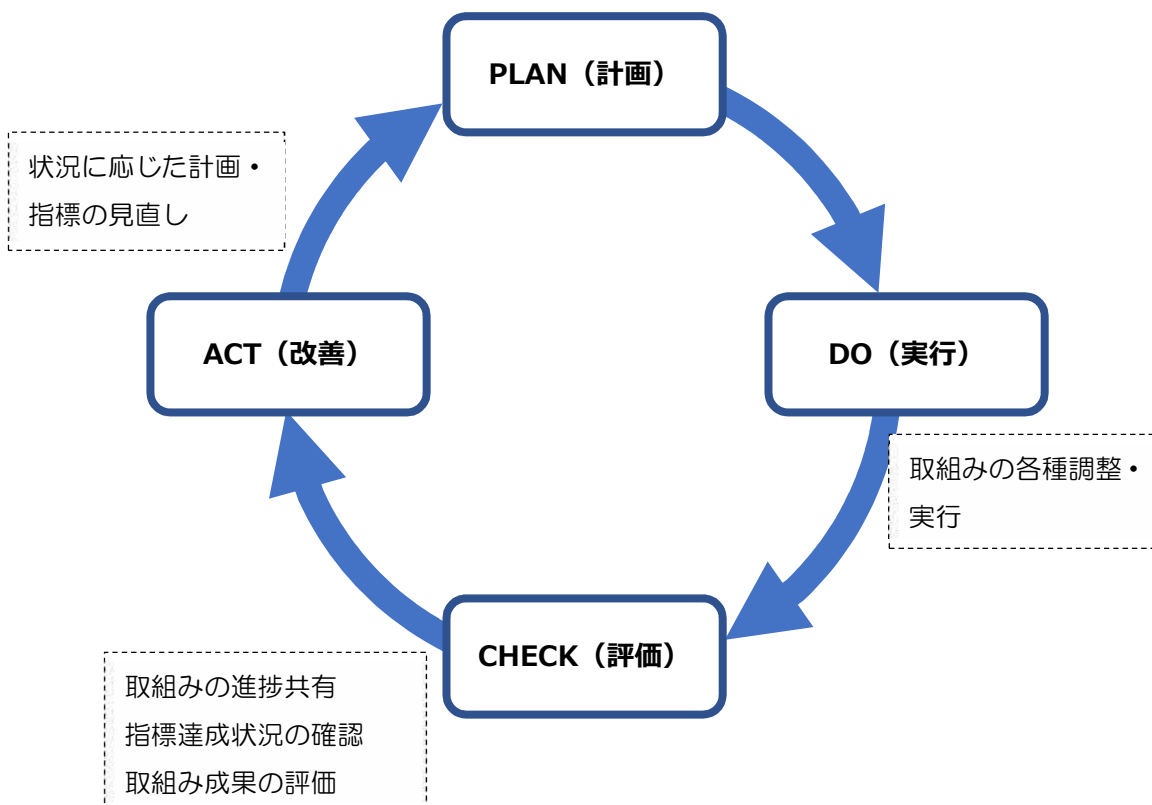
2 進行管理

本計画の進行管理については、本計画に係る策定組織を母体とした「(仮) 本部町観光振興協議会」を立ち上げ、取組みの各種調整及び実行、進捗共有、数値指標の達成状況の確認、成果の評価、状況に応じた計画・指標の見直しなど、PDCA サイクルに基づく適正な計画の管理運営を行う。

【進行管理体制と主な取組み】



【PDCA サイクルによる管理運営】



参考資料

1 観光データの収集

沖縄県及び本部町に関する統計資料等を参考に、本部町における観光の状況を整理する。整理にあたっては、沖縄県全体の傾向（◇）と本部町の傾向（◆）について整理する。

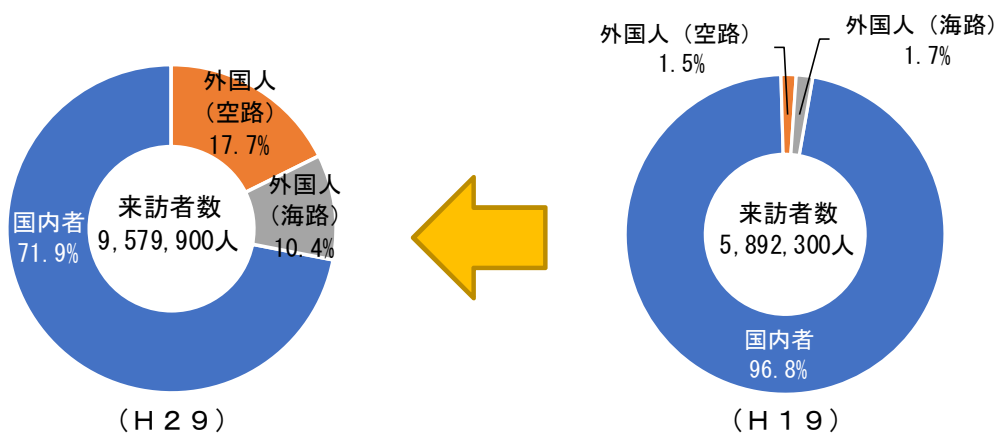
（１）観光客

- ◇観光客数は年間約 1 千万人。外国人観光客の割合がこの 10 年間で全体の約 3 割に
- ◇国内客の 8 割以上がリピーターに対し、外国人の約 7～8 割は初めての訪問
- ◆本部町への観光客数は年間約 500 万人。10 年間で約 1.5 倍
- ◆宿泊者数は、年間約 78 万人。うち約 3 割が外国人観光客
- ◆町内へ入域（海洋博公園へ入園）する外国人観光客の割合もこの 10 年で 3 割以上に

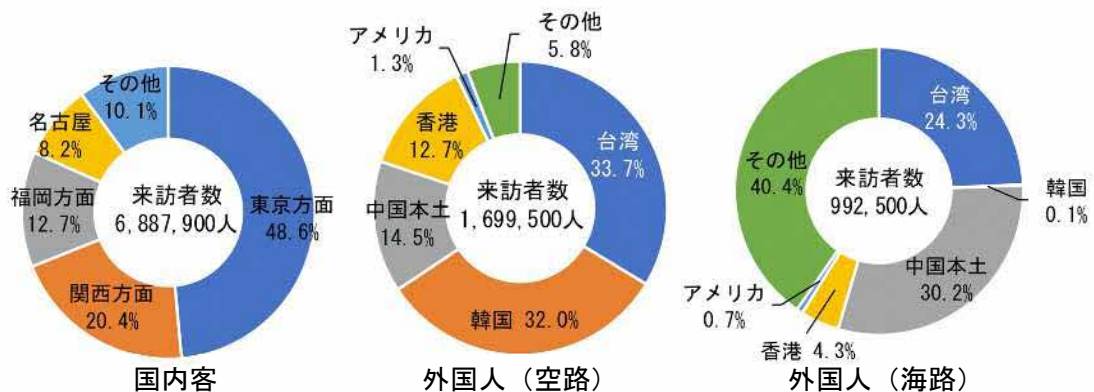
①沖縄県への観光客数

観光客数は年間約 1 千万人。外国人観光客の割合がこの 10 年間で全体の約 3 割に

【沖縄県入域観光客数（全体）】



【地域・国籍別入域観光客数（H29）】

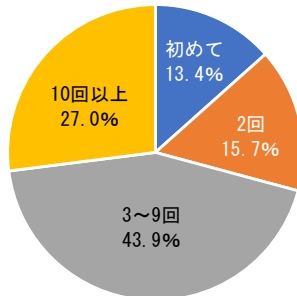


出典：観光要覧～沖縄県観光統計集～平成 29 年（H30.9/沖縄県）

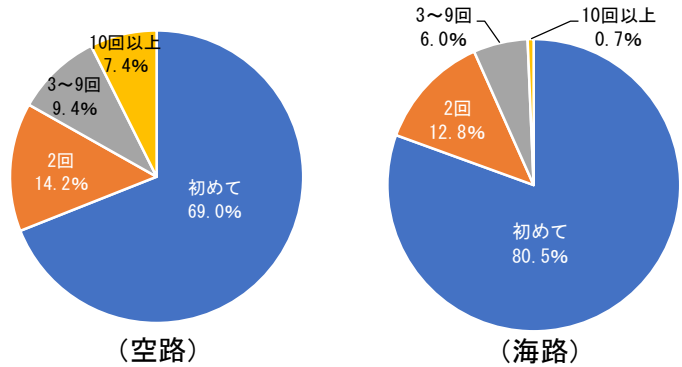
②沖縄県への来訪リピート率

国内客の8割以上がリピーターに対し、外国人の約7～8割は初めての訪問

【国内客来訪回数（H29）】



【国外客来訪回数（H29）】

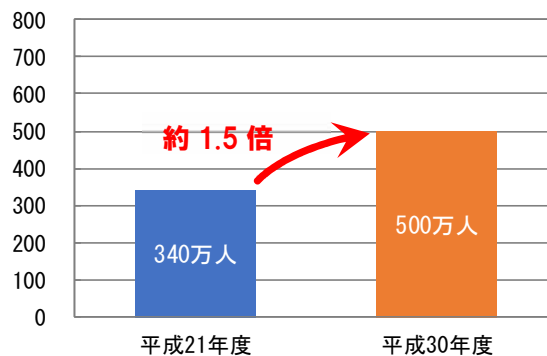


出典：観光要覧～沖縄県観光統計集～平成 29 年（H30.9/沖縄県）
平成 29 年度外国人観光客実態調査報告書（H30.3/沖縄県文化課観光スポーツ部）

③本部町への観光客数

観光客数は年間約 500 万人。10 年間で約 1.5 倍

【本部町への観光入域者数（H21-H30）】

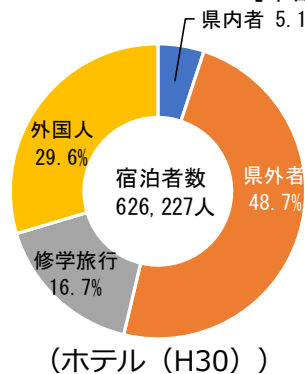


出典：本部町観光協会資料

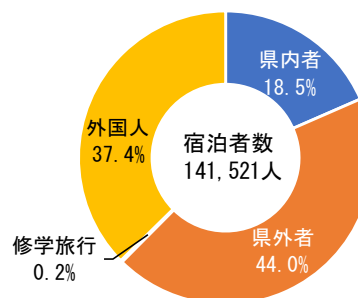
④本部町の年間宿泊者数

宿泊者数は、年間約 78 万人。うち約 3 割が外国人観光客

【本部町への年間宿泊者数】



（ホテル（H30））



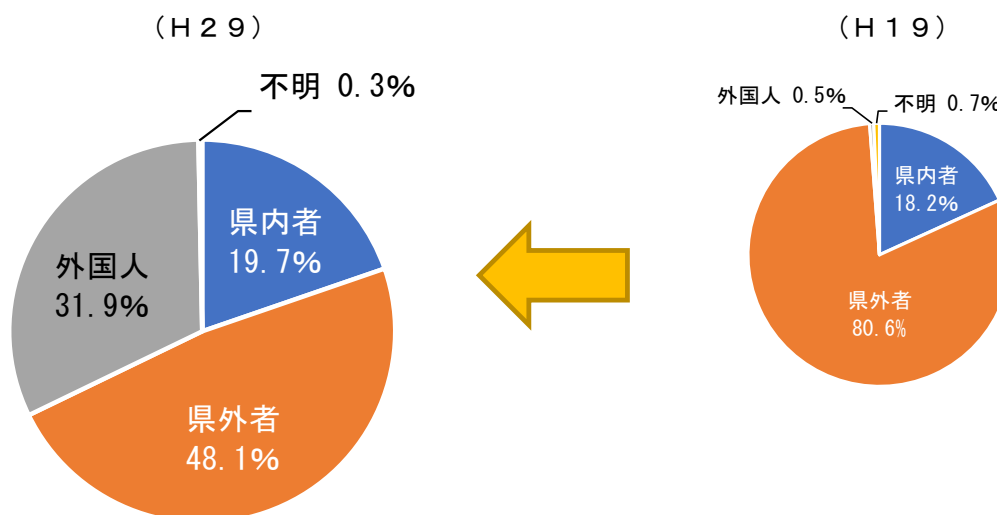
（民宿・ペンション（H30））

出典：本部町観光協会資料

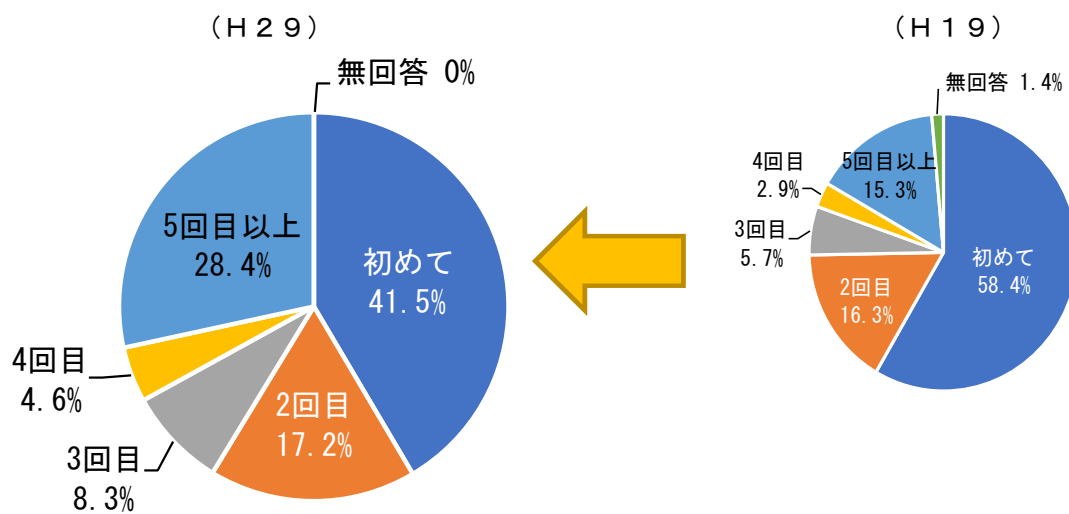
⑤本部町（海洋博公園）の入域者層と来訪回数

町内へ入域（海洋博公園へ入園）する外国人観光客の割合もこの10年で3割以上に

【海洋博公園入園者内訳】



【来園回数】



出典：内閣府 沖縄総合事務局 国営沖縄記念公園事務所ホームページより加工編集

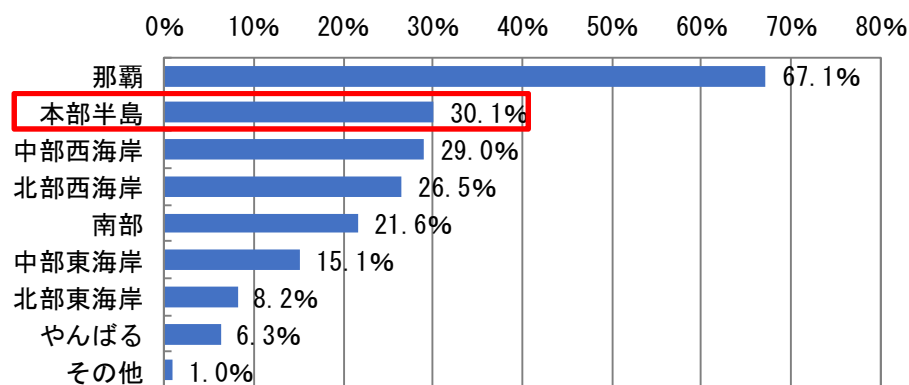
(2) 訪問先と宿泊施設

- ◆本部町は訪問先としてのニーズは高いものの、宿泊先としては選ばれにくい
- ◆観光客の訪問先の多くは沖縄美ら海水族館及び主要な観光ルート上に集中
- ◇外国人（空路）は宿泊期間中に複数箇所を訪問する傾向にあるが、外国人（海路）は買い物目的の訪問先が主
- ◆本部町の宿泊施設は、恩納村や名護市に比べてホテル・旅館の割合が少なく、今帰仁村と同様にペンション・貸別荘の割合が高いのが特徴

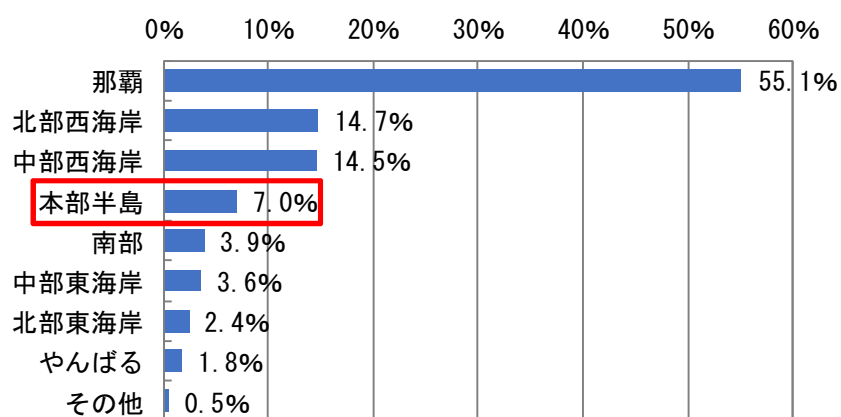
① 沖縄県の訪問先と宿泊地域

本部半島は、那覇に次ぐ第2位の訪問先だが、宿泊先としては第4位

【訪問地（H29）】



【宿泊地域（H29）】

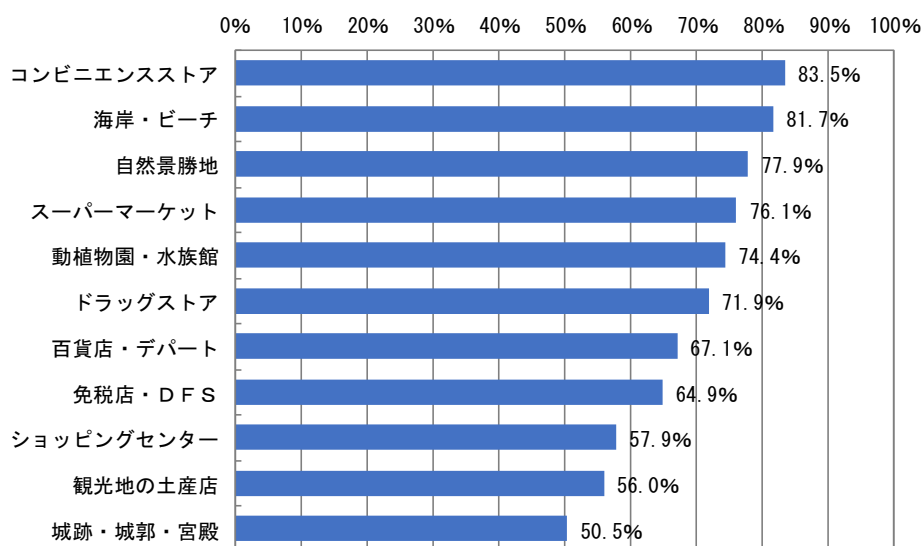


出典：平成 29 年度観光統計実態調査報告書（H30.3/沖縄県文化課観光スポーツ部）

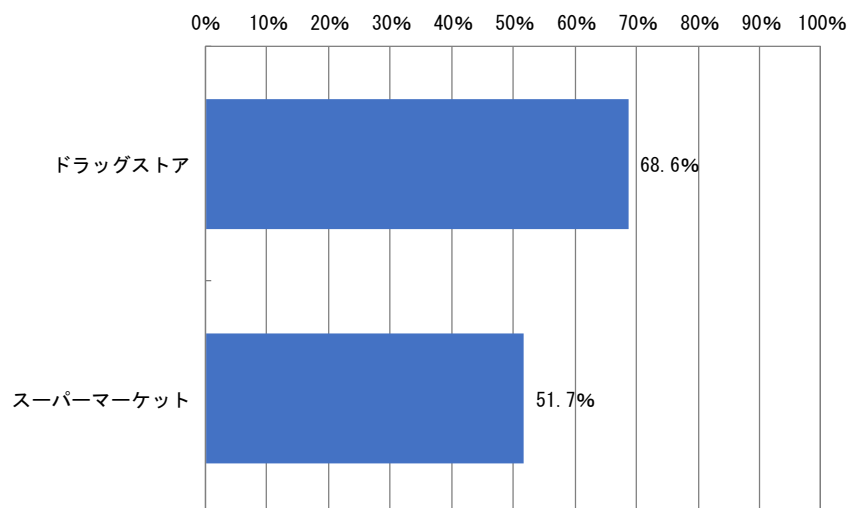
②外国人観光客の訪問場所

外国人（空路）は複数箇所を訪問するのに対し、外国人（海路）は買物が主
外国人（空路）における沖縄県での平均宿泊数は、3.95 日

【外国人（H29 空路）※訪問した場所のうち 50%以上】



【外国人（H29 海路）※訪問した場所のうち 50%以上】



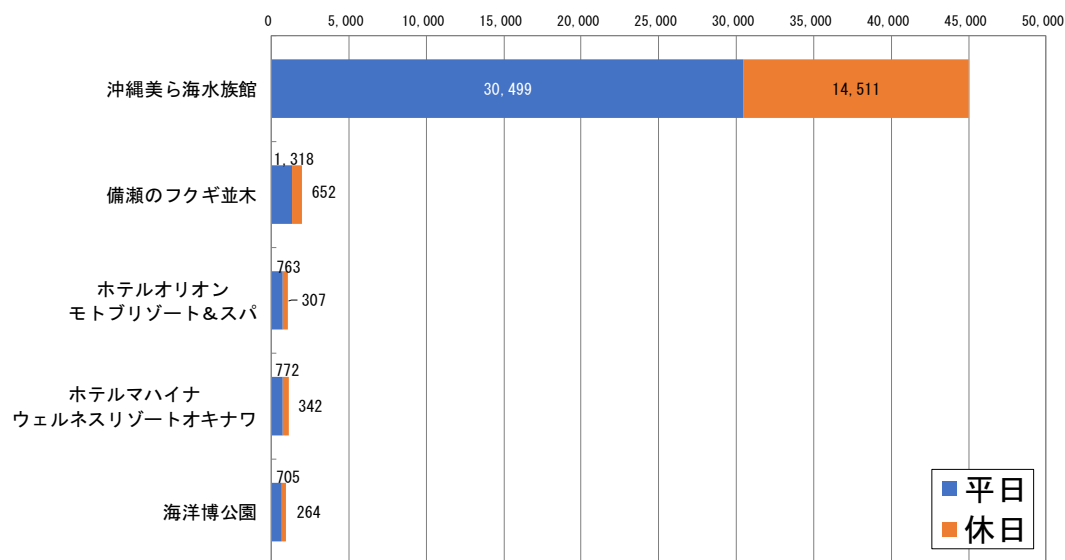
出典：観光要覧～沖縄県観光統計集～平成 29 年（H30.9/沖縄県）

③本部町の観光地検索数

検索数は沖縄美ら海水族館が最も多く、2位の約 22 倍となっている

主要な観光道路（国道 449 号、県道 84 号線）沿いを目的地としている観光客が多い

【国内客の観光地検索数（H29）】



出典：RESAS（2017）を加工編集

【外国人観光客の観光地滞在人数メッシュ（H29）】

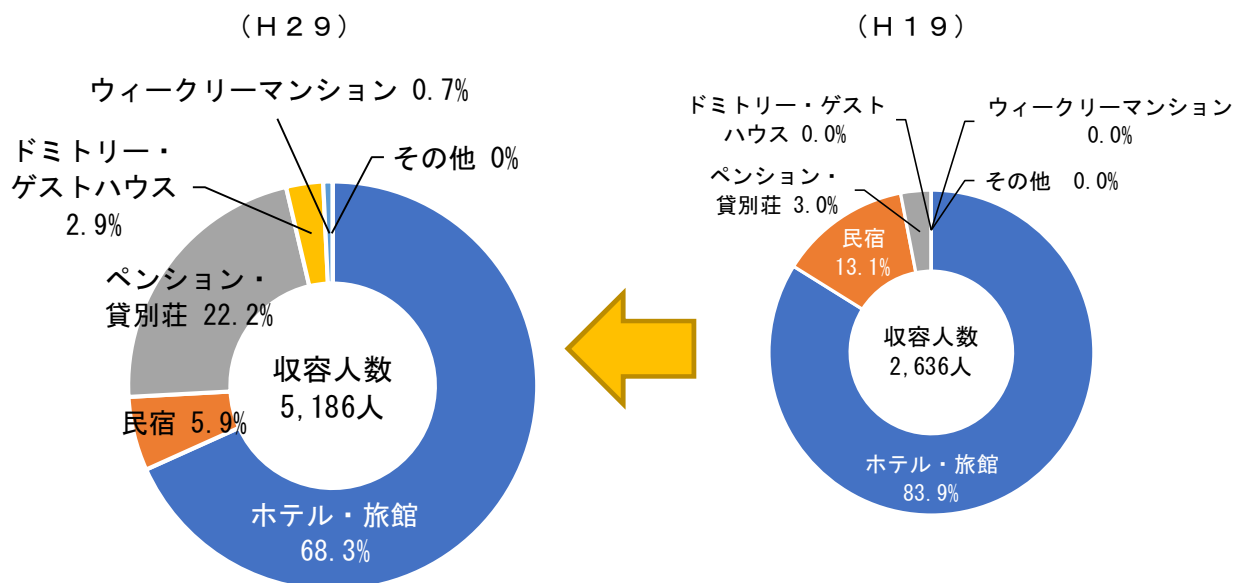


出典：RESAS（2017）を加工編集

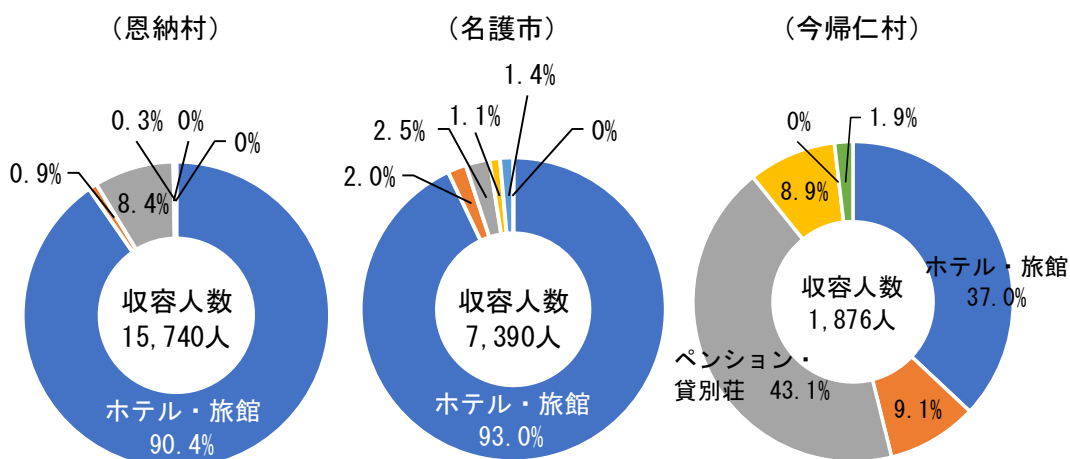
④宿泊施設の状況

本部町内での収容人数は約 5,000 人となっており、うち2割がペンションや貸別荘
 周辺市町村と比較すると、恩納村や名護市に比べてホテル・旅館の割合が少なく、今帰仁
 村と同様にペンション・貸別荘の割合が高いのが特徴

【本部町内収容人数内訳】



【周辺市町村との比較】



出典：観光要覧～沖縄県観光統計集～平成 29 年（H30.9/沖縄県），
 第 51 回 沖縄県統計年鑑（平成 20 年版）

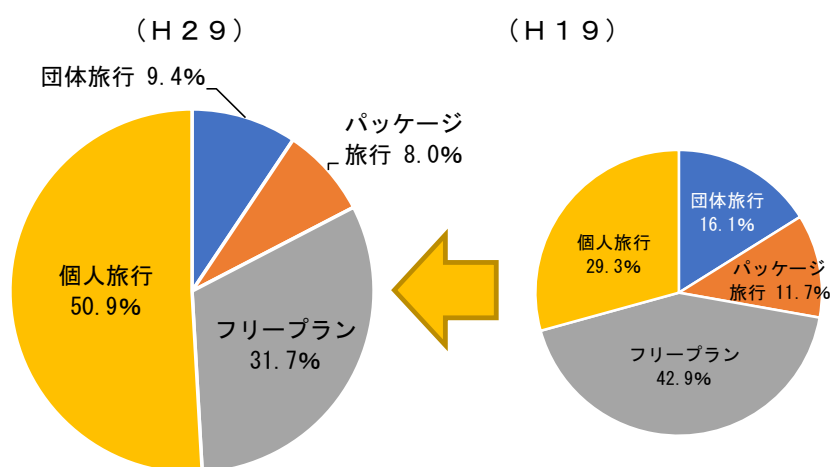
(3) 旅行形態・交通手段

- ◇観光客の多くが個人旅行又は現地での自由な行動を好む傾向
- ◆本部町に訪問する観光客の多くはレンタカーまたは自家用車を使用

① 沖縄県への旅行形態

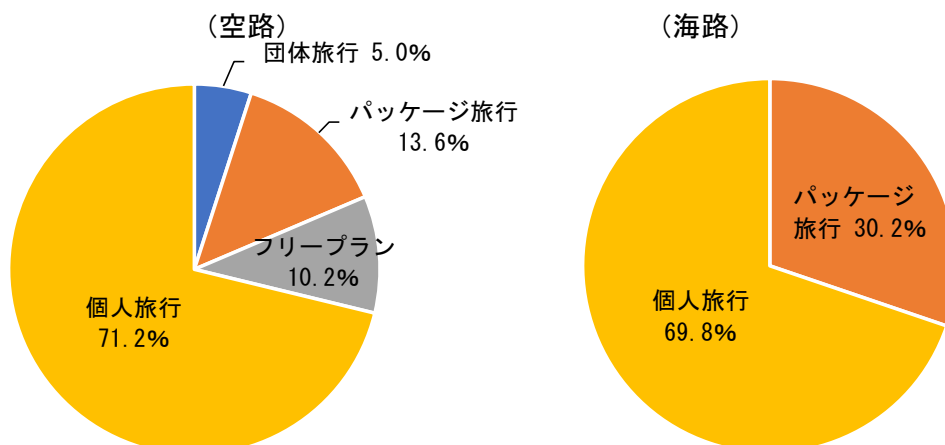
国内、海外ともに団体旅行が1割未満

【国内旅行形態】



出典：平成 29 年度観光統計実態調査報告書（H30.3/沖縄県文化課観光スポーツ部）

【外国人旅行形態（H29）】

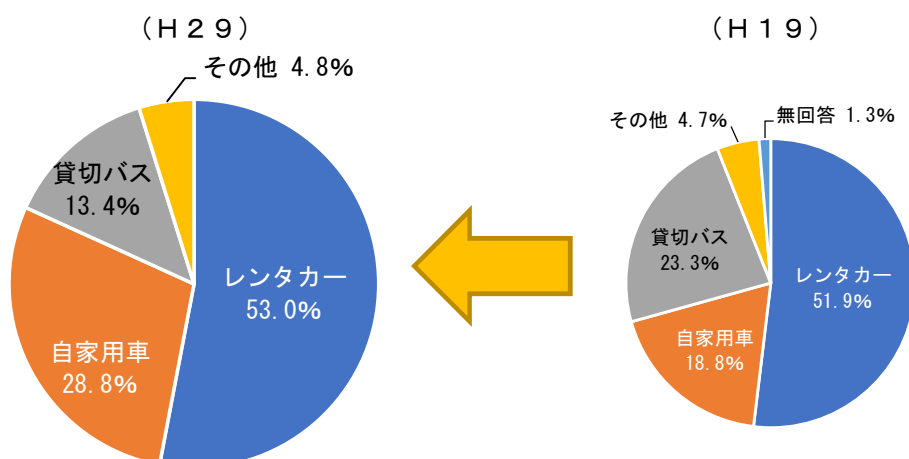


出典：平成 29 年度外国人観光客実態調査報告書（H30.3/沖縄県文化課観光スポーツ部）

②本部町（海洋博公園）への交通手段

レンタカーまたは自家用車での移動が約8割

【海洋博公園までの利用交通手段】

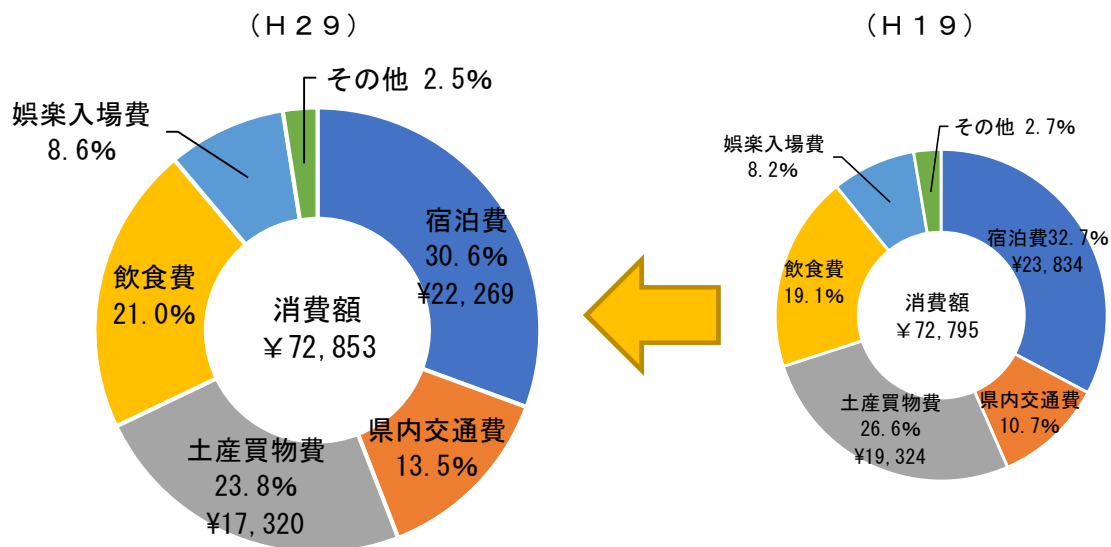


出典：内閣府 沖縄総合事務局 国営沖縄記念公園事務所ホームページより加工編集

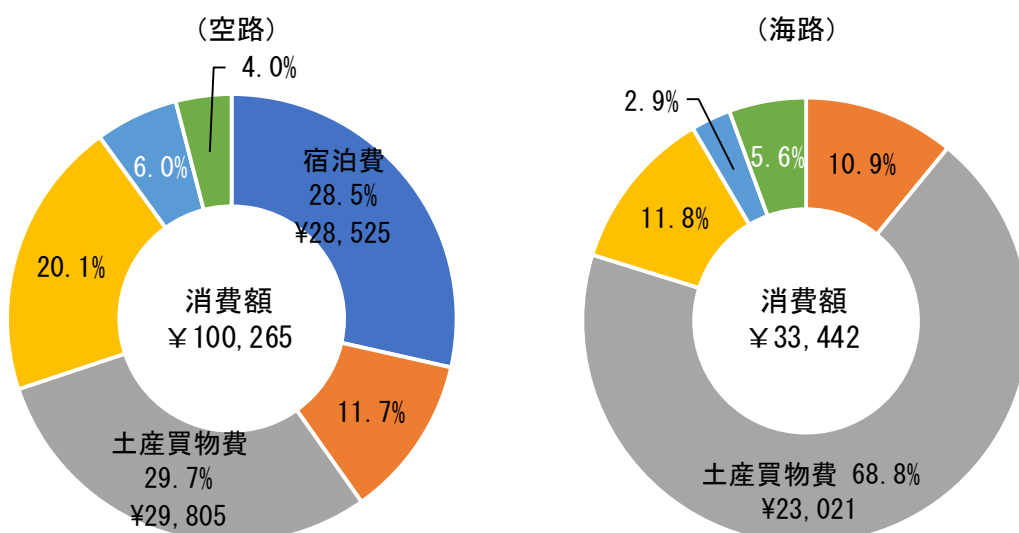
(4) 観光消費（沖縄県での一人当たり消費額）

◇消費額は、観光客（全体）7万円台、外国人（空路）10万円台、外国人（海路）3万円台
 ◇宿泊費は約2～3万円。土産買い物費は約1.7～2.9万円

【観光客（全体）の消費額内訳】



【外国人観光客の消費額内訳（H29）】



出典：観光要覧～沖縄県観光統計集～平成 29 年（H30.9/沖縄県），
 平成 29 年度外国人観光客実態調査報告書（H30.3/沖縄県文化課観光スポーツ部）

(5)主要国籍・地域における外国人観光客の特徴

- ◇台湾は、空路客数が全国籍・地域で最も多く、平成 29 年度は、夏季を中心に空路及び海路客ともに増加。リピートの割合も高い。また、ドラッグストアへの訪問率が高いことも特徴
- ◇韓国は、夏季よりも冬季の入域観光客数が多いのが特徴。また、平均泊数が主要 4 か国籍・地域で最も短い。訪沖が「初めて」の割合が主要 4 か国籍・地域で最も多い
- ◇香港は、リピーター、フリープラン、平均泊数が主要 4 か国籍・地域で最も多いことが特徴
- ◇中国は、クルーズ利用が増加傾向。訪沖が「初めて」の割合が高く、空路での「観光付ツアー」、海路での「バスツアー」利用者の割合が多いことが特徴

①国籍・地域別サマリー（空路）【県全体】

	概要		特徴
台湾	入域観光客数	572,000 人 (前年度比26%増)	・空路客数が<u>全国籍・地域で最も多い</u>が、冬季は入込がやや少なくなる ・<u>リピーター</u>の割合が主要 4 か国籍・地域の中で香港の次に高い（26.3%） ・「<u>ドラッグストア</u>」の訪問率が高い（88.8%）
	1人あたり観光消費額	92,888 円	
	観光収入	約531 億円	
	平均泊数	3.96 泊	
韓国	入域観光客数	543,400 人 (前年度比21%増)	・夏季よりも<u>冬季</u>の入域観光客数が多い ・平均<u>泊数</u>が主要 4 か国籍・地域で最も<u>短い</u> ・訪沖が「<u>初めて</u>」の割合が主要 4 か国籍・地域で最も多い（89.7%）
	1人あたり観光消費額	79,243 円	
	観光収入	約432 億円	
	平均泊数	3.30 泊	
香港	入域観光客数	216,600 人 (前年度比13%増)	・<u>リピーター</u>の割合が主要 4 か国籍・地域の中で最も高い（34.4%） ・「<u>フリープラン</u>」の割合が主要 4 か国籍・地域で最も多い（14.1%） ・平均泊数が主要 4 か国籍・地域で最も長い
	1人あたり観光消費額	127,880 円	
	観光収入	約277 億円	
	平均泊数	4.86 泊	
中国	入域観光客数	246,700 人 (前年度比0.3%減)	・平成29年度の空路客数は、クルーズ利用の増加もあり<u>横ばい</u>となった ・訪沖が「<u>初めて</u>」の割合が主要 4 か国籍・地域で2番目に多い（85.1%） ・「<u>観光付ツアー</u>」の割合が主要 4 か国籍・地域で最も多い（20.2%）
	1人あたり観光消費額	145,113 円	
	観光収入	約351 億円	
	平均泊数	4.25 泊	

出典：沖縄県 観光要覧～沖縄県観光統計集～平成 29 年（H30.9/沖縄県）

②国籍・地域別サマリー（海路）【県全体】

	概要		特徴
台湾	入域 観光客数	241,000 人 (前年度比26%増)	- 平成29年度は、<u>夏季</u>を中心に海路客が増加した <u>リピーター</u>の割合が比較的多い（39.0%） 「<u>個人観光</u>」の割合が多い（83.9%）
	1人あたり 観光消費額	34,397 円	
中国	入域 観光客数	299,300 人 (前年度比59%増)	- 平成29年度も、前年度以上に<u>海路客が増加</u>した - 訪沖回数が「<u>初めて</u>」の割合が多い（86.5%） 「<u>バスツアー</u>」利用者の割合が多い（59.5%）
	1人あたり 観光消費額	36,114 円	

出典：沖縄県 観光要覧～沖縄県観光統計集～平成 29 年（H30.9/沖縄県）

2 来訪者・宿泊者アンケート調査

本部町へ来訪する観光客の立ち寄り場所や利用経路、来訪目的などの基礎資料を収集することを目的に本部町内の観光施設および宿泊施設においてアンケート調査を実施した。調査概要及び調査結果は以下のとおりである。

(1) 実施概要

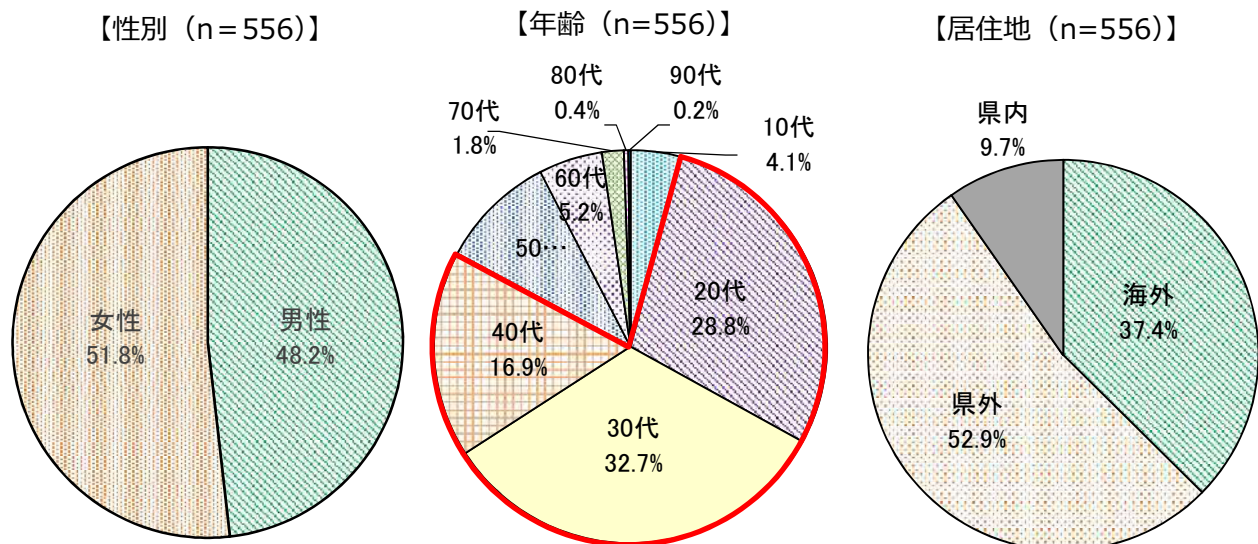
【来訪者・宿泊者アンケート実施概要】

調査目的	○観光客の立ち寄り場所や利用経路、来訪目的などの基礎資料を収集	
設問内容	○回答者属性（性別、年齢、居住地、宿泊先、宿泊数） ○今回の旅行（楽しみ、目的地、理由等） ○本部町の旅行（訪問回数、滞在期間、感想、改善点、紹介意向等）	
	来訪者	宿泊者
調査場所	○海洋博公園（水族館前付近の休憩所周辺・美ら海プラザ内）	○本部町内の宿泊施設6箇所
調査期間	○令和元年9月7日（土） 10:00～18:00（8時間調査）	○令和元年9月13日（金）～9月30日（日）
実施方法	○直接質問	○直接配布
回収数	○425通 （日本人223票・外国人202票）	○131通 （回収率：16.1%）

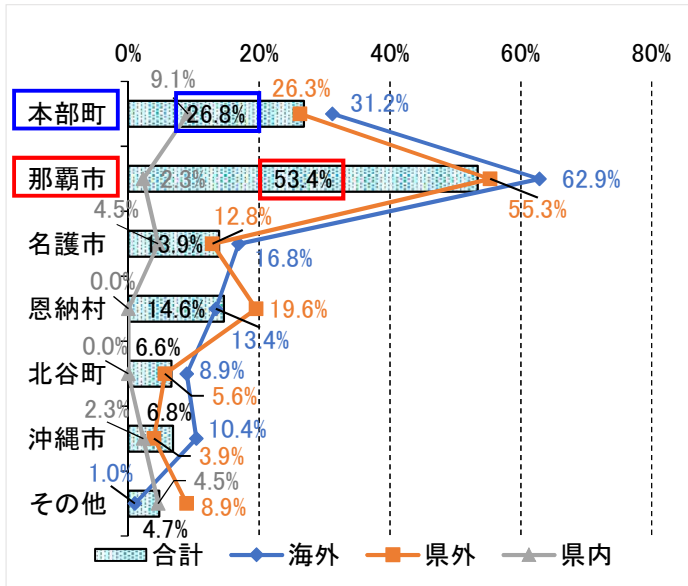
(2) 調査結果

① 回答者属性（性別、年齢、居住地）

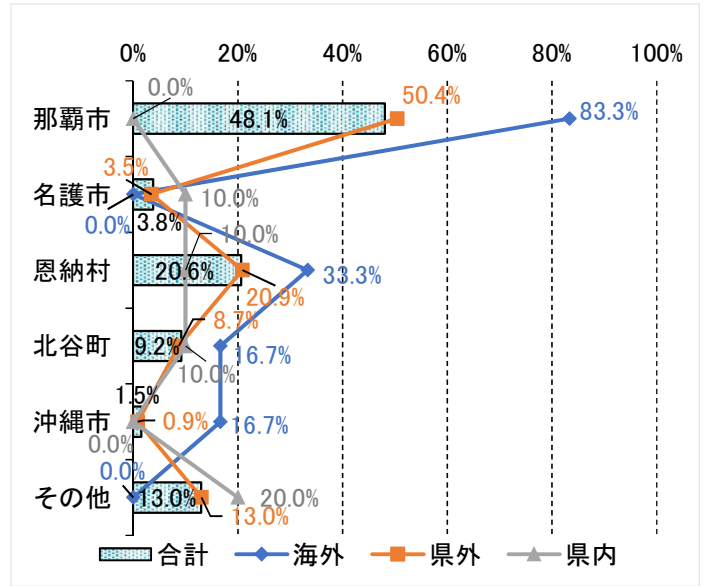
- ・回答者の男女比は大きな差はない
- ・20代～40代を中心に幅広く回答を得た
- ・居住地は、県外が約5割、海外約4割、県内が約1割
- ・宿泊先は、来訪者の約5割が那覇市に宿泊。本部町への宿泊は来訪者の約3割
- ・宿泊数は、県内は日帰り、県外は「2泊3日」、海外は「3泊4日」が最も多い



【宿泊先（複数回答）（n=556）】

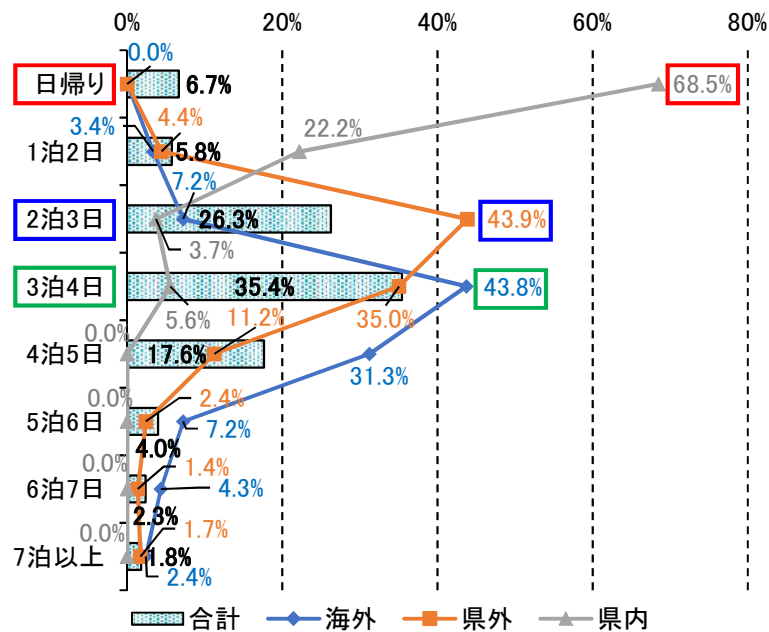


（来訪者アンケート）（n=425）



（宿泊者アンケート）（n=131）
※本部町宿泊者対象のため本部町は除く

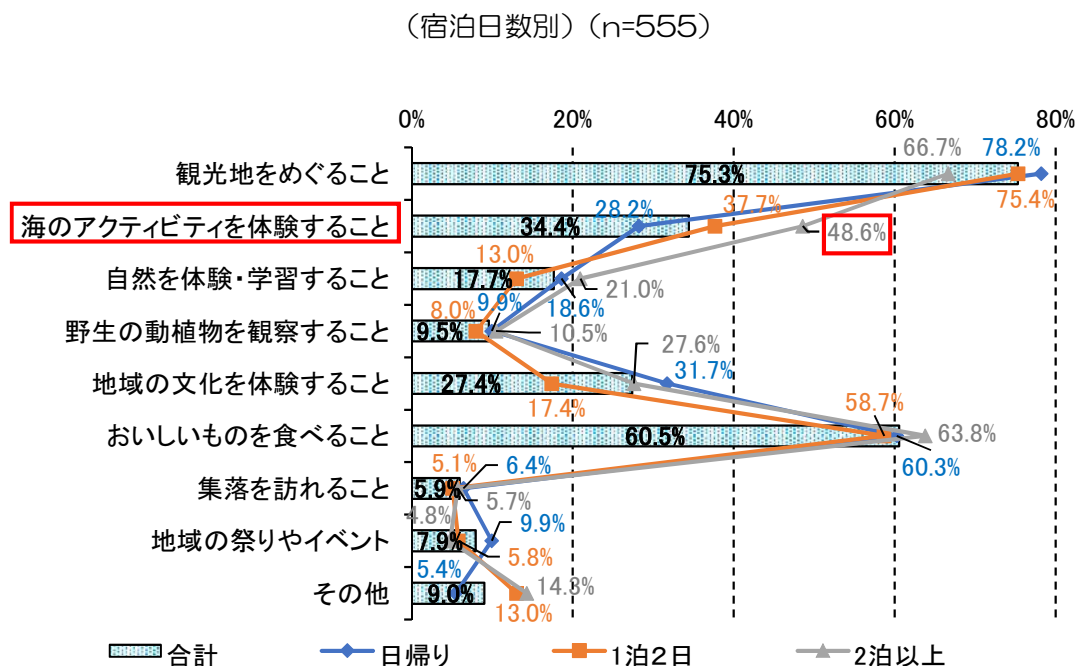
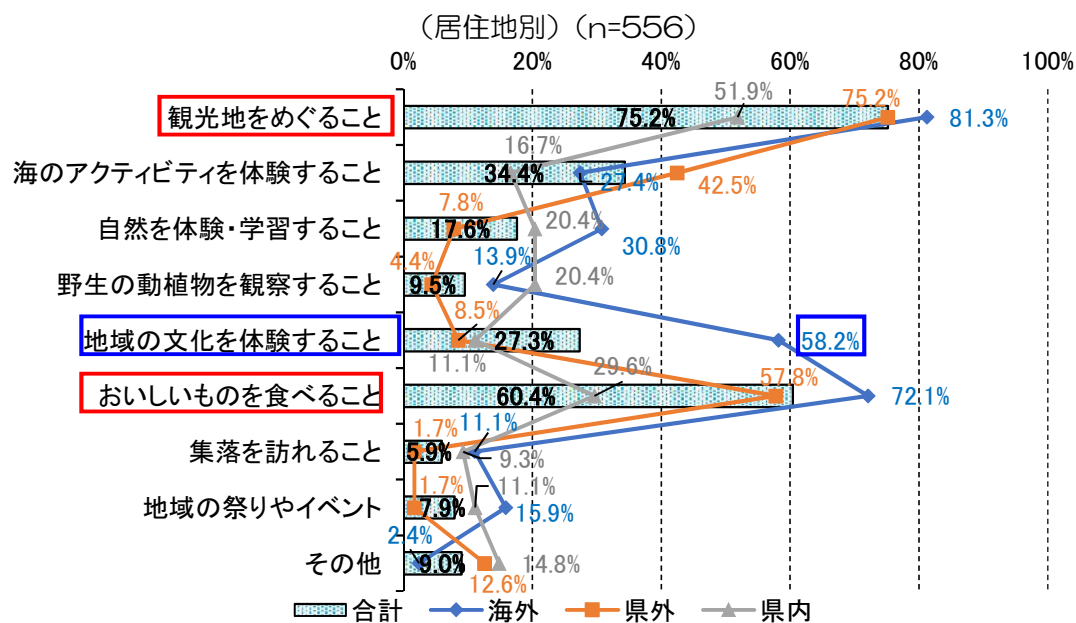
【宿泊数（n=556）】



② 今回のご旅行について

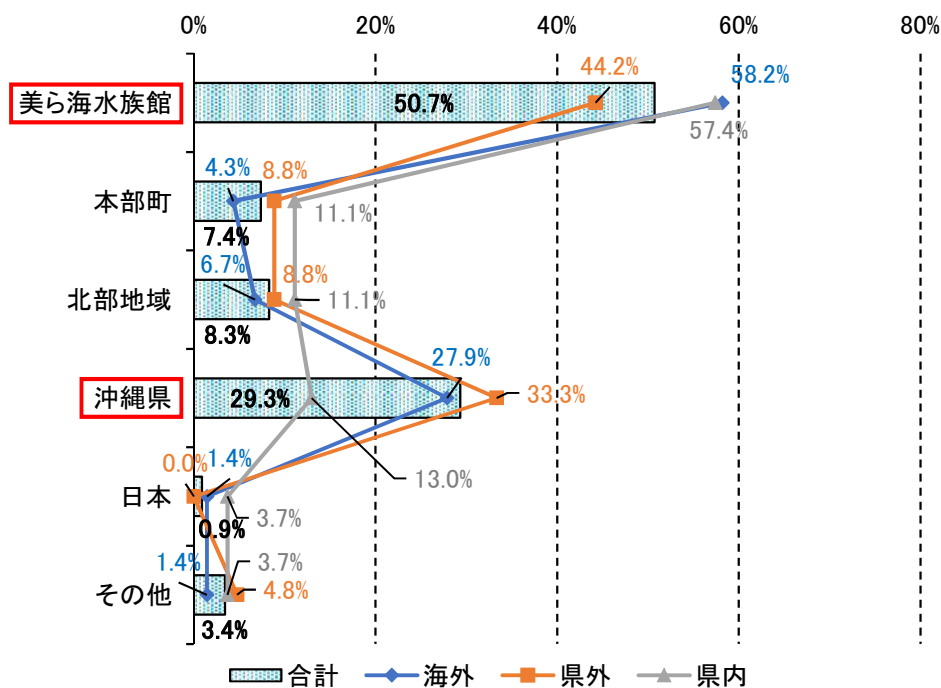
- ・観光地での楽しみは、「観光地巡り」「食べ物」が多数。宿泊者は宿泊日数が長いほど「海のアクティビティ体験」を楽しみにする傾向。外国人は「文化体験」を楽しみにする傾向
- ・目的地は、「美ら海水族館」、「沖縄県」が多数。宿泊日数が長いほど、本部町を目的とする人が増加。また、美ら海水族館が目的地の人は日帰りが多い
- ・宿泊の理由は「美ら海水族館に近い」が約5割。特に外国人は8割以上が同理由

【今回の旅行の楽しみ（複数回答）】

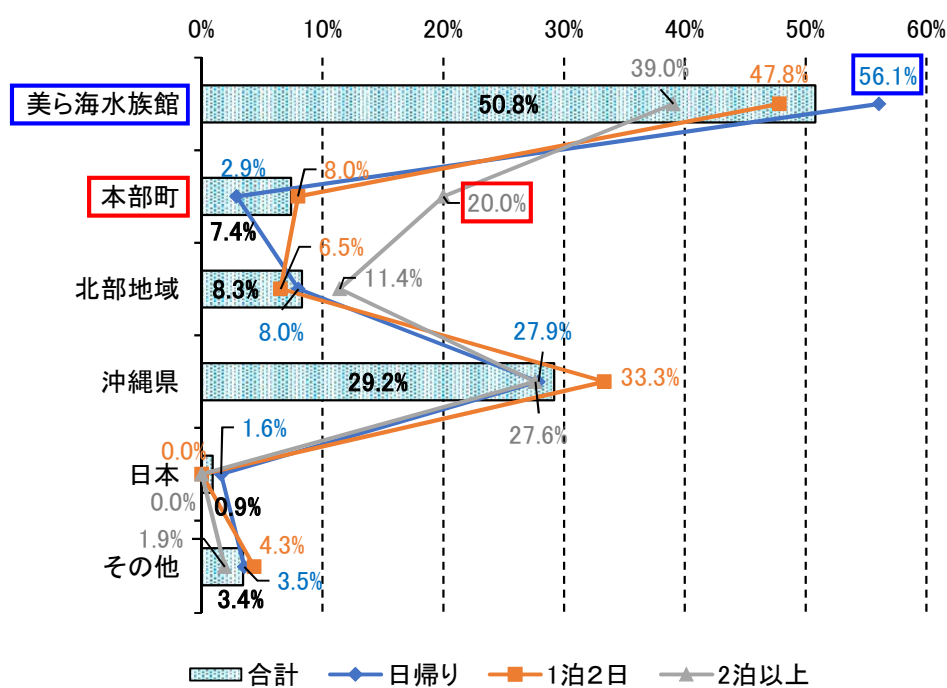


【今回の旅行の目的地】

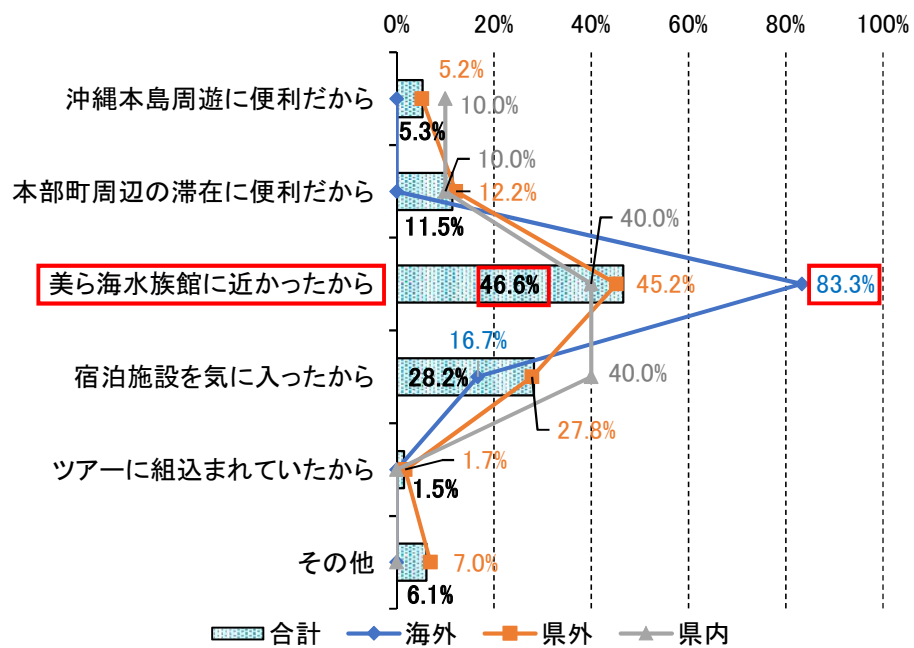
(居住地別) (n=556)



(宿泊日数別) (n=555)



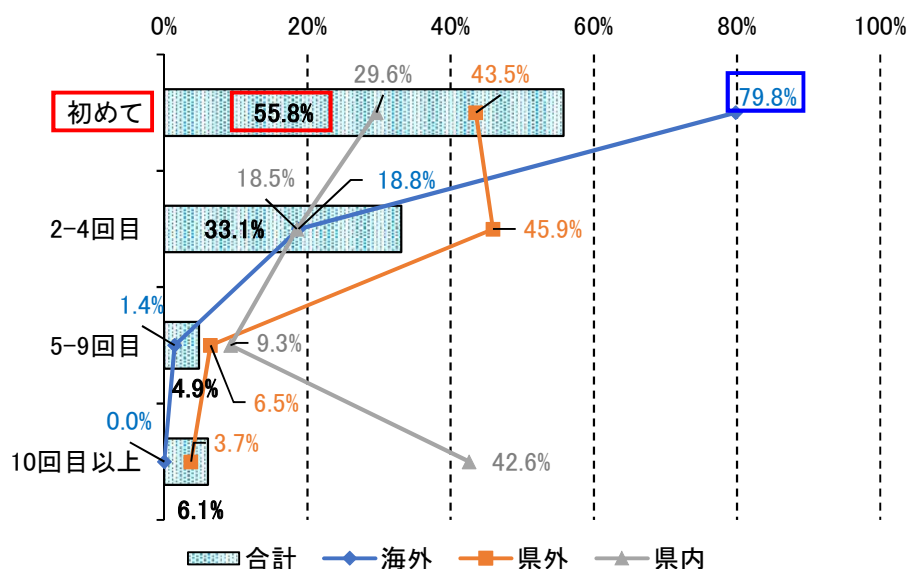
【今回の旅行の宿泊地を本部町にした理由（宿泊者アンケートのみ）（n=131）】



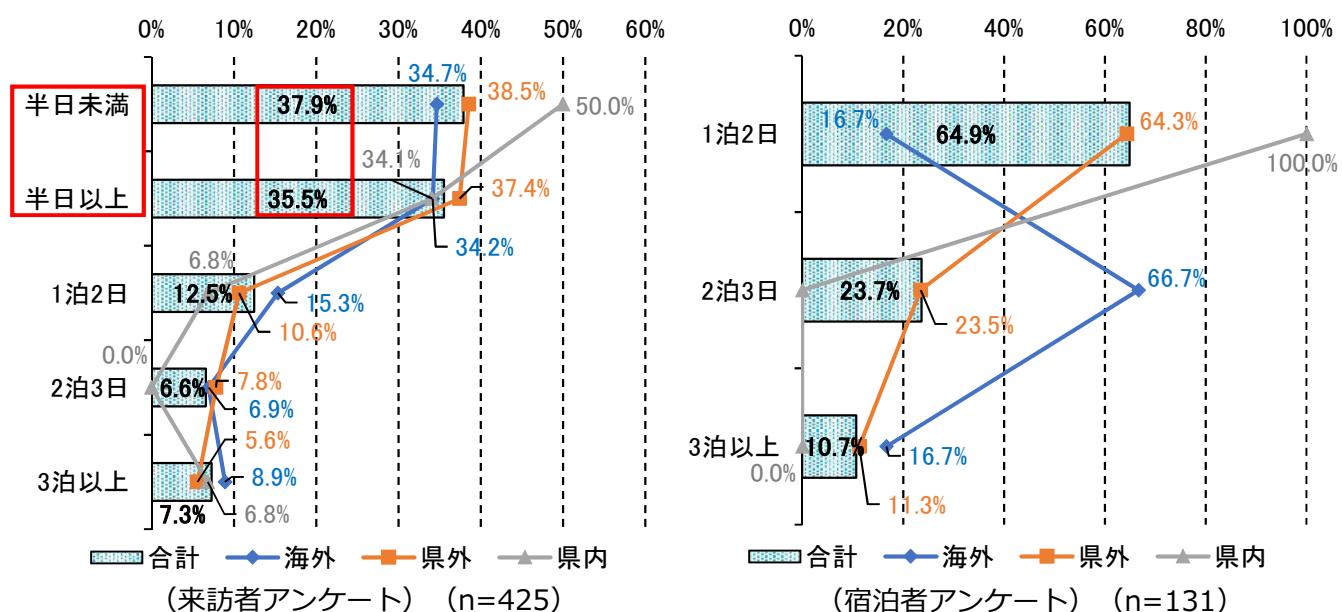
③ 本部町の旅行について

- ・ 来訪回数は、初来訪が約 6 割。外国人は約 8 割が初来訪。国内観光客は初来訪とリピーターが同程度
- ・ 滞在期間は、町訪問者の約 7 割が日帰り
- ・ 本部町の観光への感想は、国内外ともに自然や沿道景観の満足度が高い。また、公共交通、Wi-fi やキャッシュレス化への満足度が低い
- ・ 注力すべき取り組みは、自然の豊かさ、公共交通利便性、キャッシュレス・Wi-fi の順。特に外国人からは「キャッシュレス化」「Wi-fi 環境の充実」のニーズが高い
- ・ 「親しい友人に本部町（美ら海水族館周辺）を紹介したいと思う」という声が約 7 割
- ・ 求める観光地域づくりは、景観の保全、飲食店の増加
- ・ 求める観光サービスは、「モデルコース」、「イベント・祭り」、「体験メニュー」等、手軽な観光体験

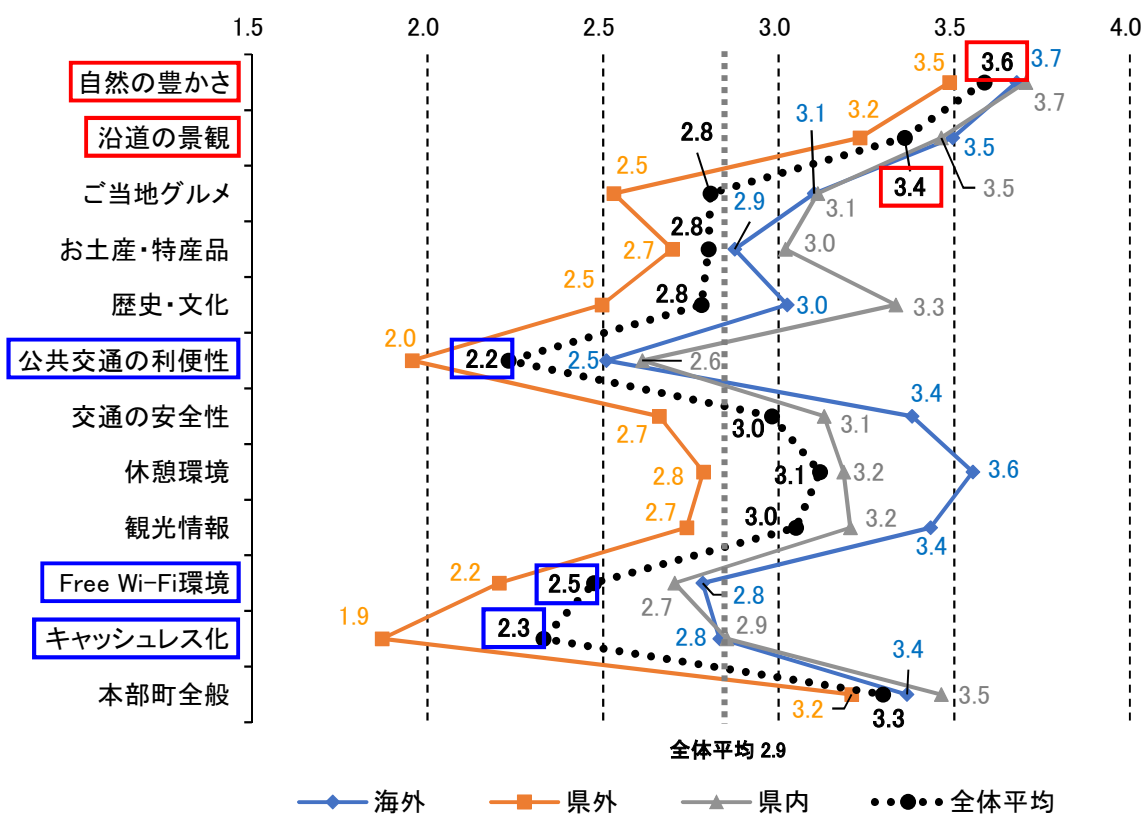
【本部町（美ら海水族館周辺）の訪問回数（n=556）】



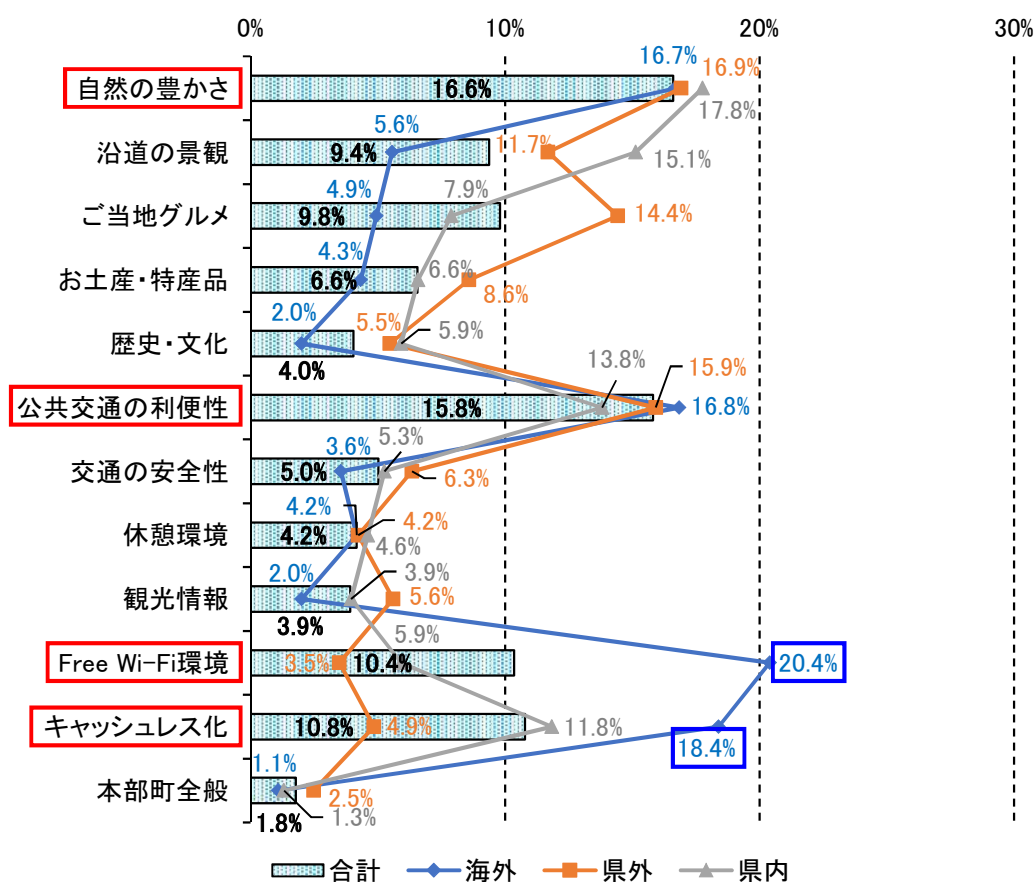
【本部町（美ら海水族館周辺）の滞在期間(n=556)】



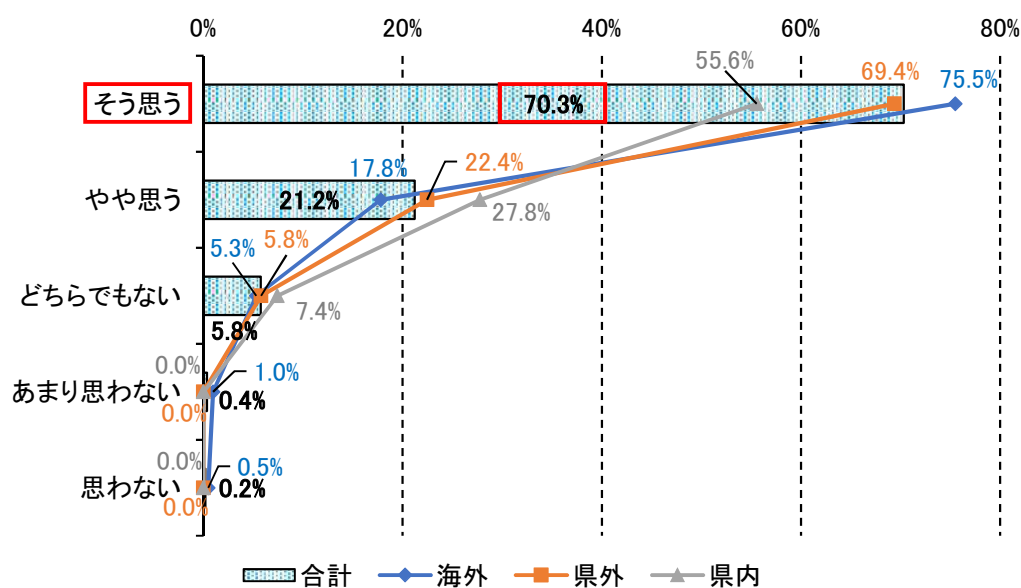
【本部町（美ら海水族館周辺）の観光の感想 (n=556)】



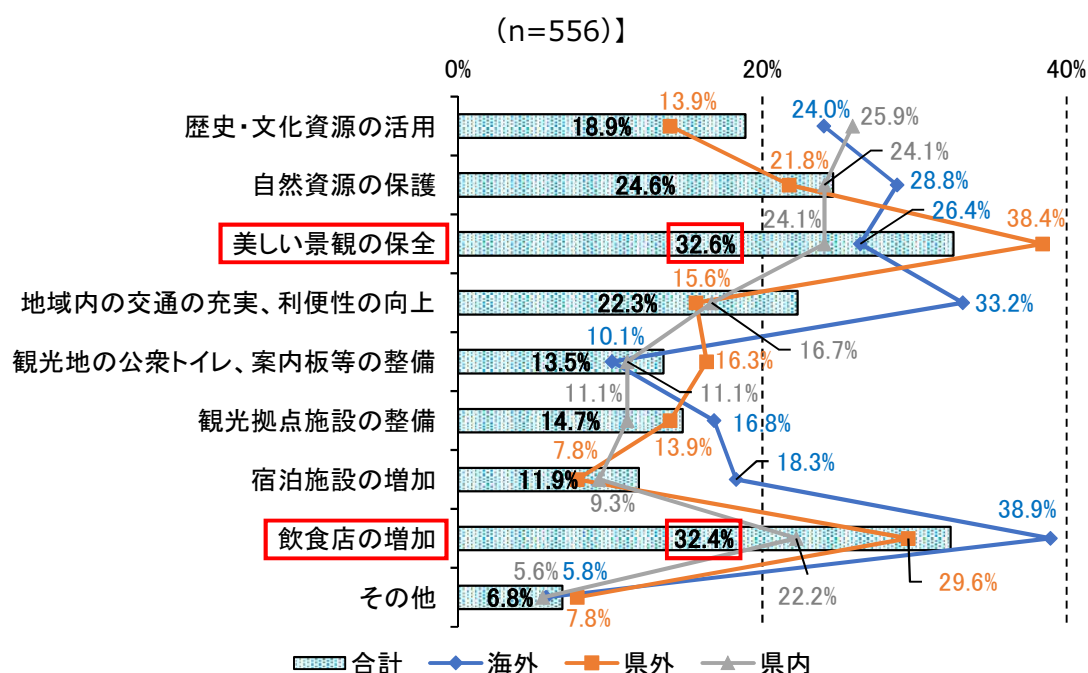
【本部町（美ら海水族館周辺）でもっと力を入れた方がいい項目（n=1,632）】



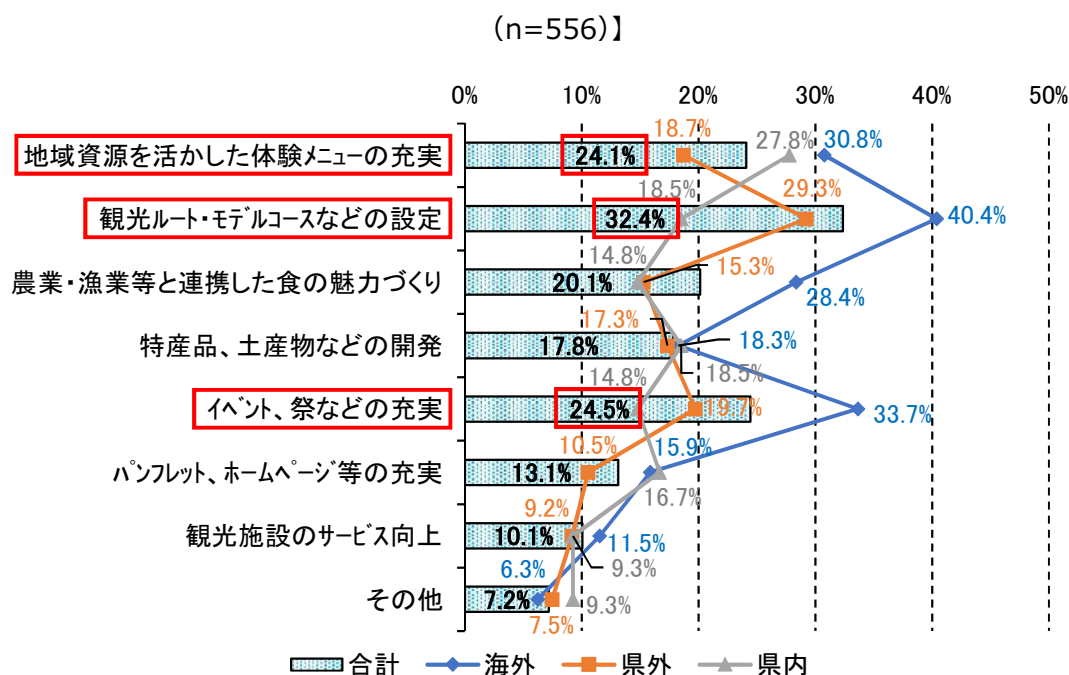
【親しい友人への本部町（美ら海水族館周辺）の推奨度（n=556）】



【本部町（美ら海水族館周辺）で必要と感じた観光地域づくりの取り組み（複数回答）】



【本部町（美ら海水族館周辺）で必要と感じた観光サービスの取り組み（複数回答）】



3 レンタカープローブ調査

本部町へ来訪する観光客の立ち寄り場所や利用経路など、観光行動データを収集・分析することを目的にレンタカープローブ調査を行った。調査概要及び調査結果は以下のとおりである。

(1) 実施概要

【レンタカープローブ調査実施概要】

調査目的	○レンタカー観光客の観光行動データの収集・分析
調査内容	○本部町内の移動状況 ○本部町及び周辺での立ち寄り箇所・滞在時間
調査対象	○本部町を目的地として那覇市からレンタカーに乗車する観光客
調査期間	○令和元年8月30日（金）～9月5日（木）
実施方法	○レンタカーにプローブ（GPS）機器を搭載し、レンタカー利用者の走行経路や立ち寄り箇所を記録
有効サンプル数	○104台（日本人86台、外国人18台）

(2) 調査結果

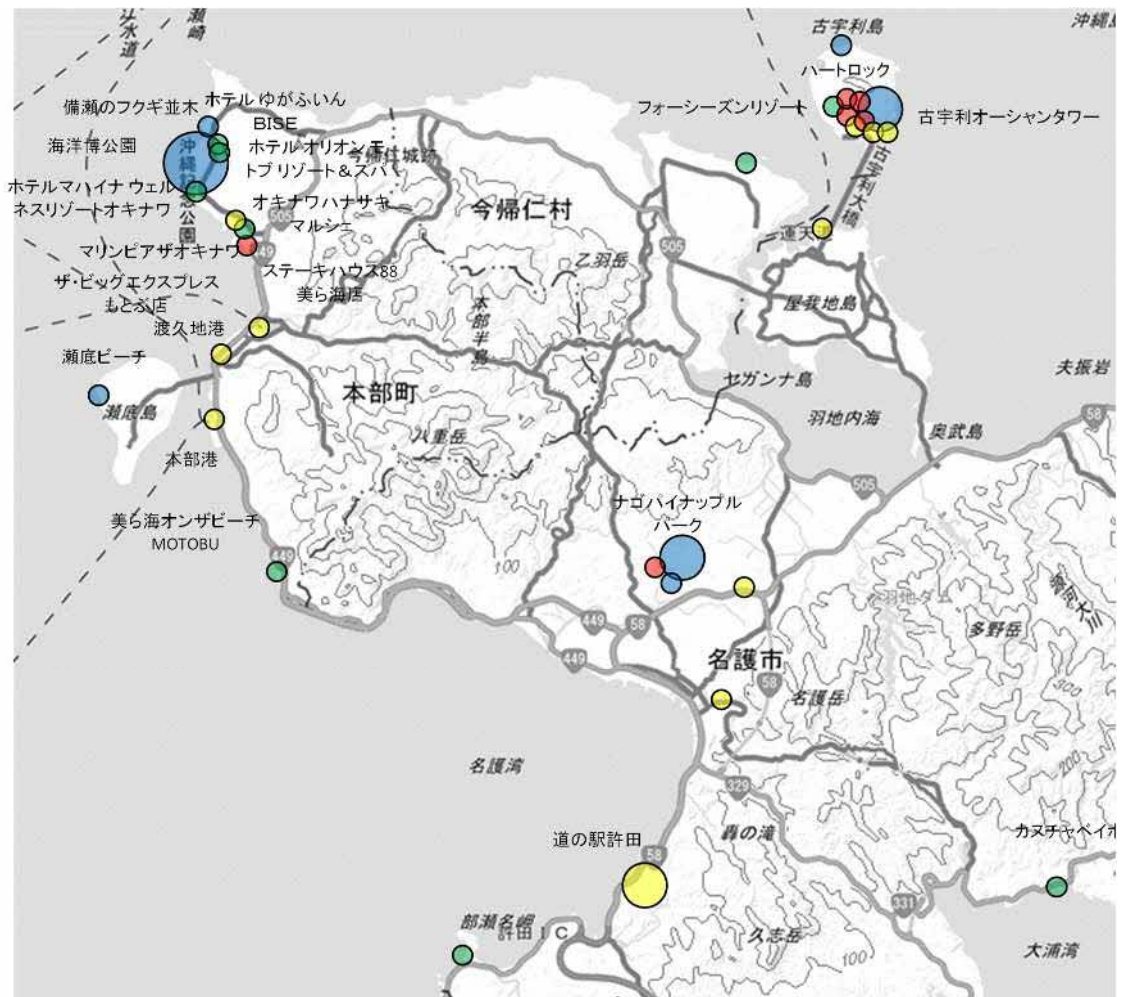
- ・海洋博公園中心の来訪。また、1か所のみでの来訪が約7割（85/123トリップ）
- ・利用経路は国道58号から海岸沿いの国道449号を利用するパターンが最も多い
- ・立ち寄り箇所は、本部町では海洋博公園、備瀬、今帰仁村では古宇利島、名護市ではパイナップルパーク周辺が多い
- ・海洋博公園、及びビーチのある瀬底、備瀬で滞在時間が長い（1h以上）。飲食店等は立ち寄り時間が短い（1h未満）

【本部町内の移動状況】

		到着地												トリップ	構成比
		海洋博	備瀬	崎本部	山川	瀬底	大浜	浦崎	伊豆味	谷茶	浜元	野原	山里		
出発地	海洋博	54	3	0	1	3	1	4	0	0	1	0	1	68	55.3%
	備瀬	4	14	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	19	15.4%
	崎本部	3	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	5.7%
	山川	1	0	0	2	1	0	0	0	2	0	0	0	6	4.9%
	瀬底	1	0	1	1	3	0	0	0	0	0	0	0	6	4.9%
	大浜	1	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	5	4.1%
	浦崎	0	1	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	5	4.1%
	伊豆味	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.8%
	谷茶	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1.6%
	浜元	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	1.6%
	野原	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0.0%
	山里	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.8%
	トリップ	65	18	8	6	8	3	8	0	3	2	0	2	123	100.0%
	構成比	52.8%	14.6%	6.5%	4.9%	6.5%	2.4%	6.5%	2.4%	0.0%	1.6%	0.0%	1.6%	100.0%	-

This map illustrates the road network of Naha City, Okinawa, with road segments color-coded by traffic volume percentage. The legend indicates four categories: 75-100% (red), 50-75% (purple), 25-50% (blue), and 0-25% (grey). Major roads shown include National Route 505, National Route 110, National Route 123, National Route 219, National Route 449, National Route 58, National Route 329, and National Route 331. Local roads like Naha City Route 114 and Naha City Route 18 are also marked. The map includes geographical features such as the city of Naha, various islands (e.g., Gushi Island, Yonaguni Island), and surrounding waters (e.g., Okinawa Bay, Ryukyu Bay). The city's administrative boundaries are outlined in black.

【本部町および周辺市町村の立ち寄り箇所】



※施設間の移動時間およびコンビニを除き 15 分以上の停車（立ち寄り）があった時間を集計

施設	件数
観光 —	51件以上
宿泊 —	11-50件以下
飲食 —	2-10件以下
その他 —	

【本部町および周辺市町村の立ち寄り時間】



※施設間の移動時間およびコンビニを除き 15 分以上の停車（立ち寄り）があった時間を集計

施設	時間
観光 —	○ 8h以上
宿泊 —	○ 4.0h~7.9h
飲食 —	○ 1.0h~3.9h
その他 —	○ 0~0.9h

4 町民アンケート調査

本部町の観光に関する町民の意識や意向を把握するため、町民アンケート調査を実施した。調査概要及び調査結果は以下のとおりである。

(1) 実施概要

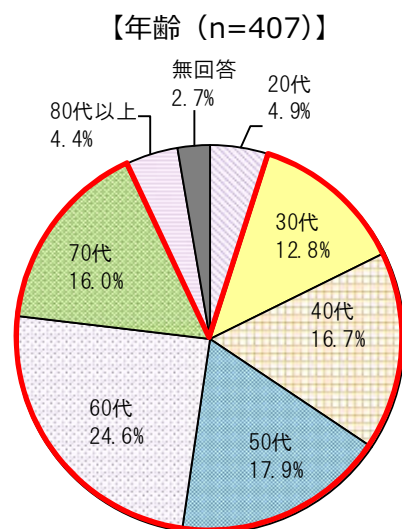
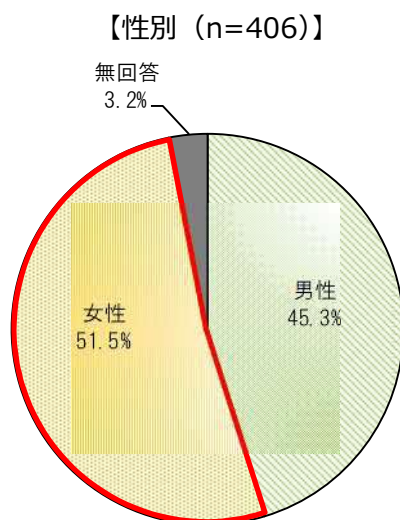
【町民アンケート実施概要】

調査目的	○観光に関する町民の意識、意向の把握
設問内容	○回答者属性（性別、年齢、職業、住まい） ○観光の現状（状況変化、紹介意向等） ○観光資源（自然、歴史文化、食、祭り/イベント） ○今後の取組み（必要な取組み、協力できること） ○自由記述
調査対象	○本部町に居住する満 20 歳以上の方 ※町民の住所、年齢構成を考慮して 2,000 名を無作為抽出
調査期間	○平成 31 年 1 月 25 日（金）～2月8日（金）
実施方法	○郵送による配布回収
回収数（回収率）	○407 通（20.5%） ※回収率は、宛先不明分を除きカウント

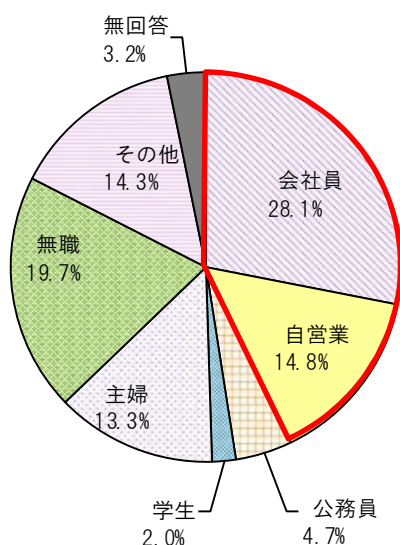
(2) 調査結果

①回答者属性

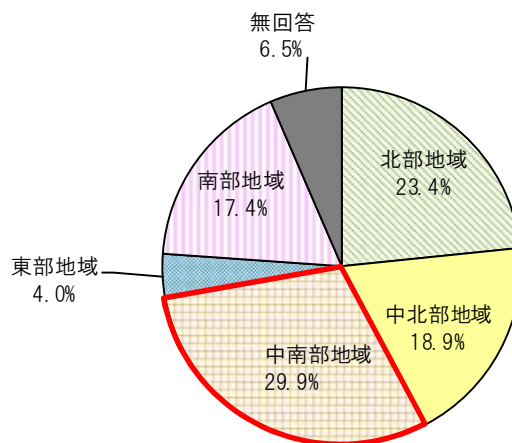
- ・回答者の男女比はやや女性が多い
- ・30歳代～70歳代にかけての幅広い年齢層が回答
- ・会社員と自営業の回答が4割以上
- ・本部町中南部地域からの回答が約3割



【職業 (n=406)】



【地域 (地域別) (n=402)】



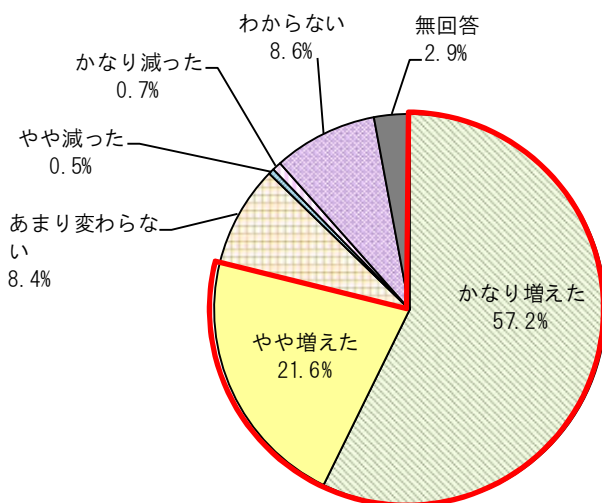
【地域別 字分類】

北部地域	石川、嘉津宇、北里、具志堅、謝花、新里、豊原、備瀬、山川
中北部地域	伊野波、大堂、浦崎、並里、野原、浜元、古島、山里
中南部地域	大嘉陽、大浜、谷茶、渡久地、東、辺名地
東部地域	伊豆味
南部地域	健堅、崎本部、瀬底、水納島

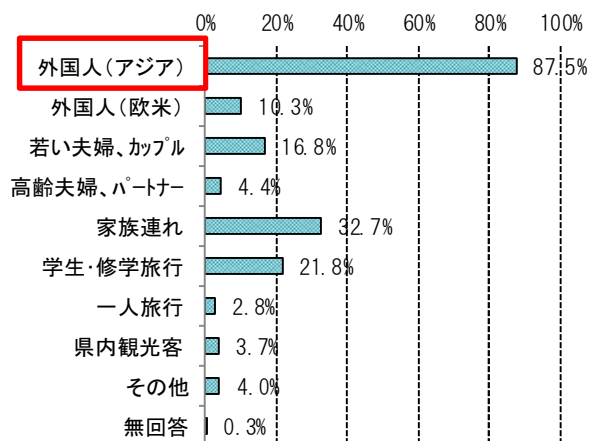
②観光の現状

- ・10年前と比較して観光客が「増えた」と感じる町民が約8割（特にアジア系）
- ・観光客が増えたことによって感じる不安/心配事項として、「交通ルール・マナー」や「生活マナー」についての意見が約9割以上
- ・本部町営市場周辺については、4割以上が「活気が出てきた」と回答
- ・本部町の事を観光客へ「紹介したい」と答えた町民が5割以上となっており、自然環境や海洋博公園に関することが主な理由

【10年前と比較した観光客の変化 (n=407)】

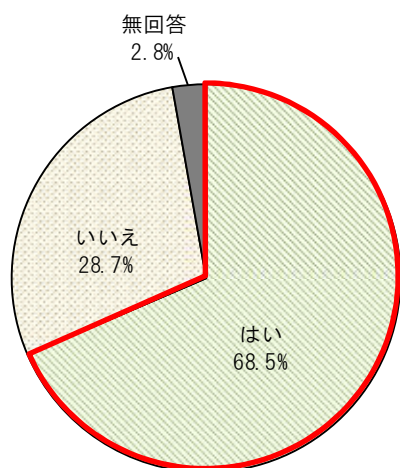


【特に増えたと感じる観光客 (n=321)】



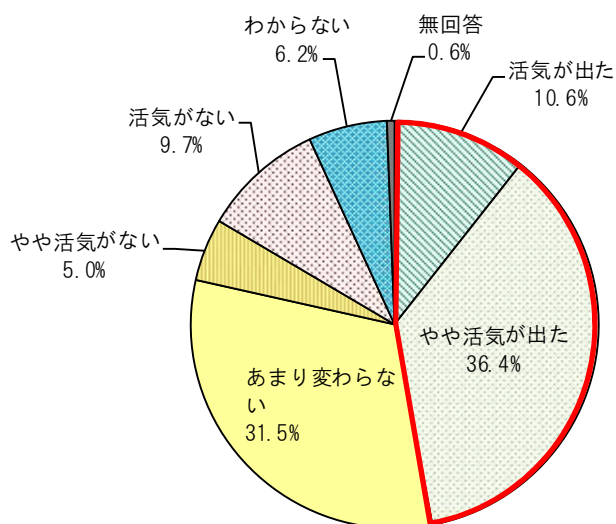
【観光客が増えたことで、観光客に対して不安/心配ごとを感じたことがあるか (n=321)】

【不安/心配事を感じた内容 (n=338)】



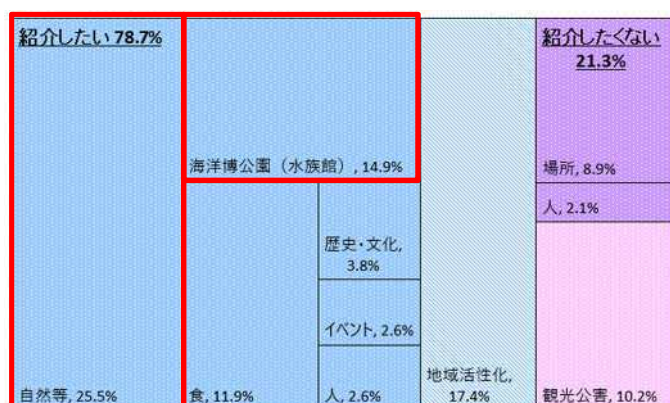
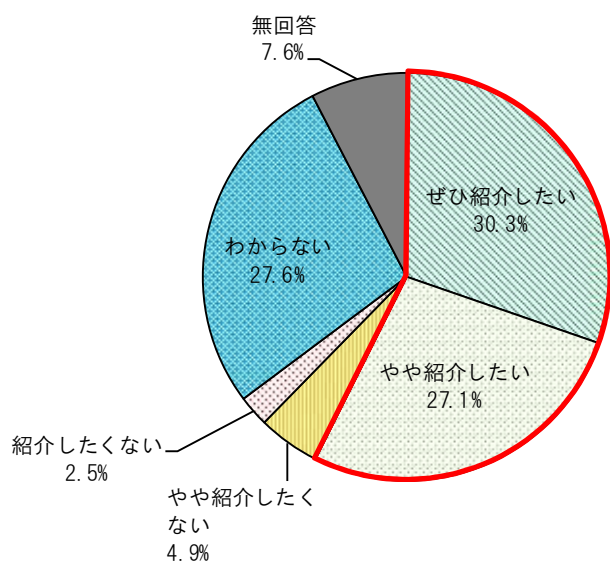
【10年前と比較した市場周辺の変化 (n=321)】

【具体的な変化 (n=150)】



【本部町を観光客に紹介したいか (n=406)】

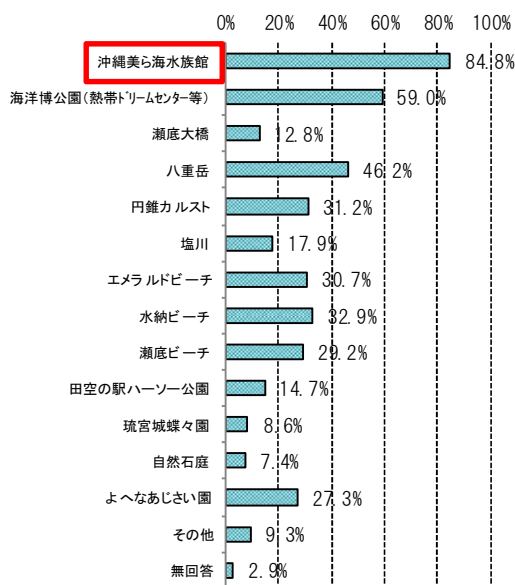
【紹介したい/したくない理由 (n=235)】



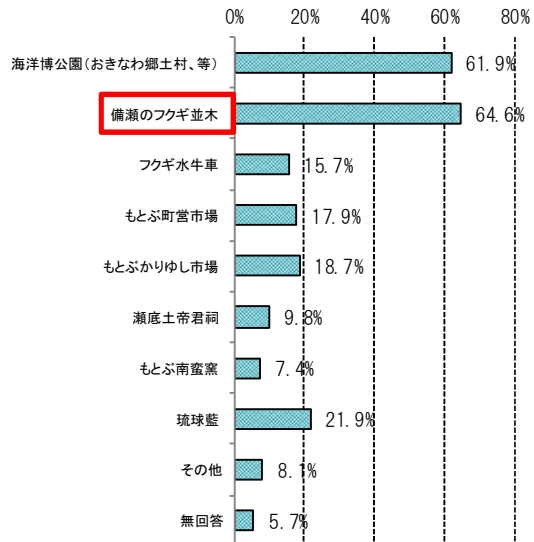
③観光資源

- ・自然などの観光資源では「沖縄美ら海水族館」、歴史文化では「備瀬のフクギ並木」「海洋博公園」「食では「アセローラ」「そば街道」が主な観光資源として支持
- ・イベント等では「もとぶ八重岳桜まつり」「本部海洋まつり」「サマーフェスタ（花火大会）」について6割以上の町民が行った経験がある

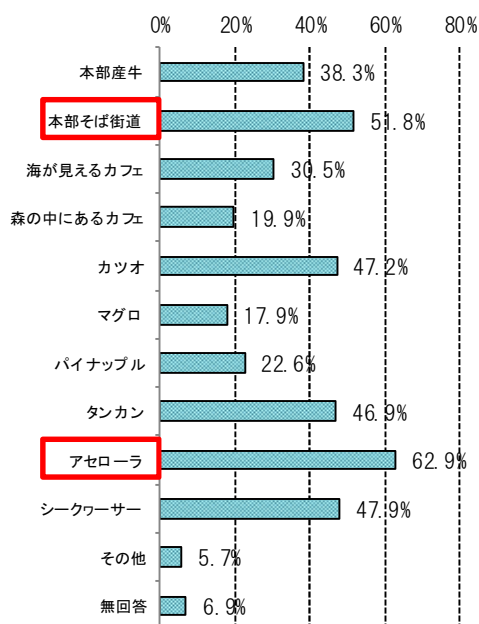
【自然等 (n=1,689)】



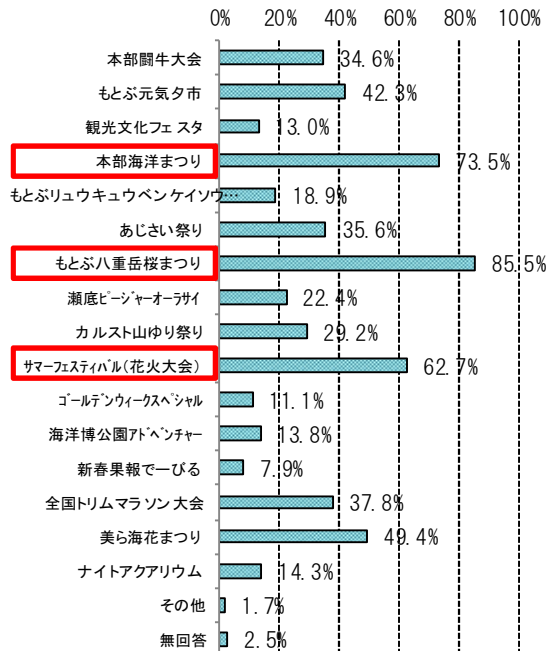
【歴史・文化 (n=943)】



【食 (n=1,622)】



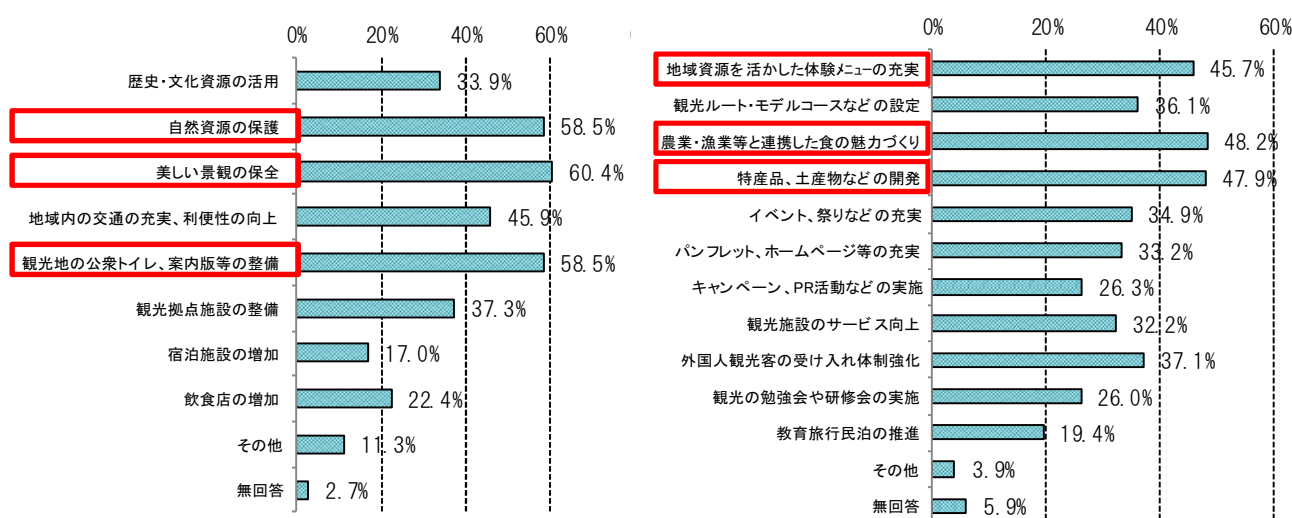
【イベント・祭り (n=2,263)】



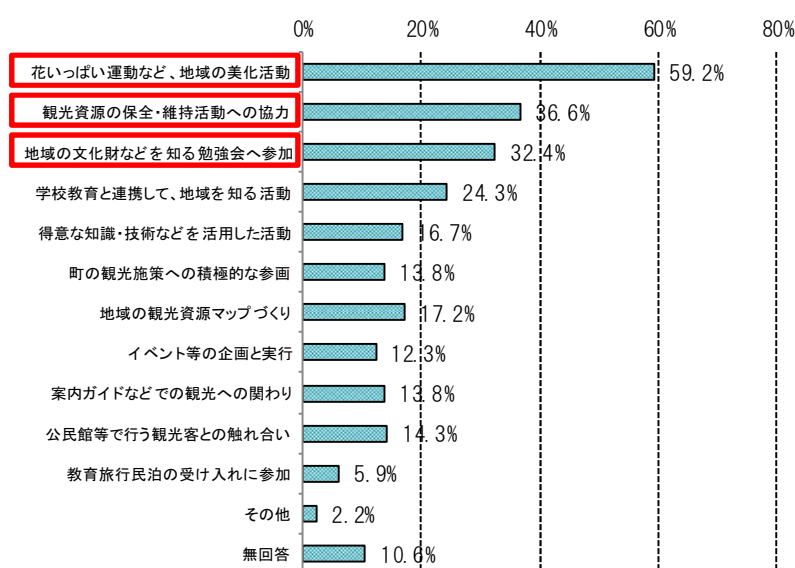
④今後の取組み

- ・ハード面では「景観の保全」や「自然資源の保護」「観光地の整備」が5割以上の回答となっており、豊富な自然環境を活かしたハード整備が期待されている
- ・ソフト面では「食の魅力づくり」「特産品等の開発」や「体験メニュー開発」が4割以上の回答となっており、地域の観光資源を活かした取組みが期待されている
- ・町民が協力できることでは「美化活動」の他、「観光資源の保全・維持活動への協力」「文化財等の勉強会への参加」が挙げられており、観光地の景観形成と共に地域の観光資源を活用する取組みにも積極的な姿勢がうかがえる

【環境保全・施設整備(ハード)の取組み(n=1,416)】 【イベント等(ソフト)の開発・支援(n=1,615)】



【町民として協力できること (n=1,055)】



5 事業者アンケート調査

本部町の観光に関する観光関連事業者の意識や意向を把握するため、事業者アンケート調査を実施した。調査概要及び調査結果は以下のとおりである。

(1) 実施概要

【事業者アンケート実施概要】

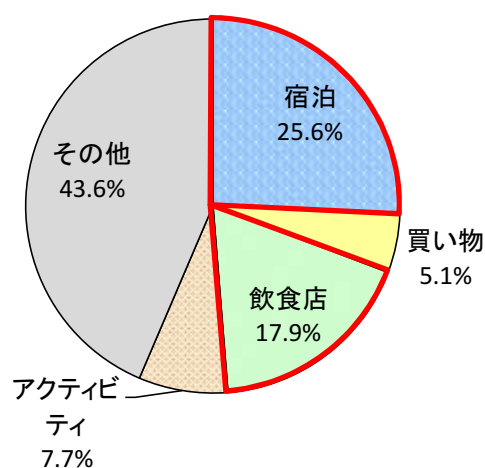
調査目的	○観光に関する観光事業者の意識、意向の把握
設問内容	○回答者属性（企業情報、経費関係） ○観光の現状（状況変化、観光資源、取組み、経済効果等） ○今後の取組み（必要な取組み、協力できること） ○自由記述
調査対象	○本部町観光協会加盟の事業者（149 事業者）
調査期間	○平成 31 年 1 月 25 日（金）～2月8日（金）
実施方法	○郵送による配布回収
回収数（回収率）	○39 通（27.1%） ※回収率は、宛先不明分を除きカウント

(2) 調査結果

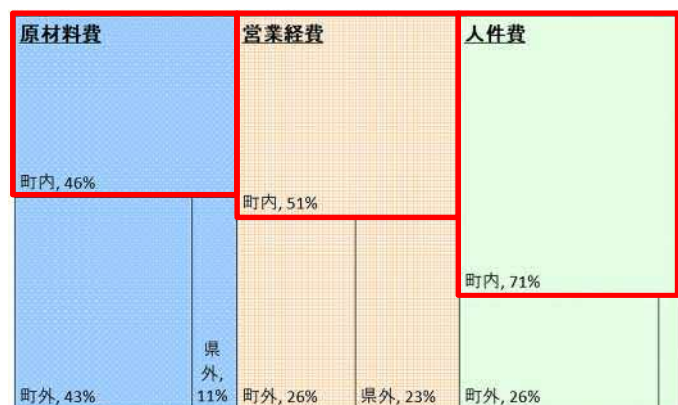
①回答者属性

- ・宿泊関係事業者からの回答が約3割。次いで飲食業の回答が約2割
- ・域内調達率は、原材料費・営業費の約5割、人件費の約7割が本部町内で調達

【回答者の事業種（n=39）】



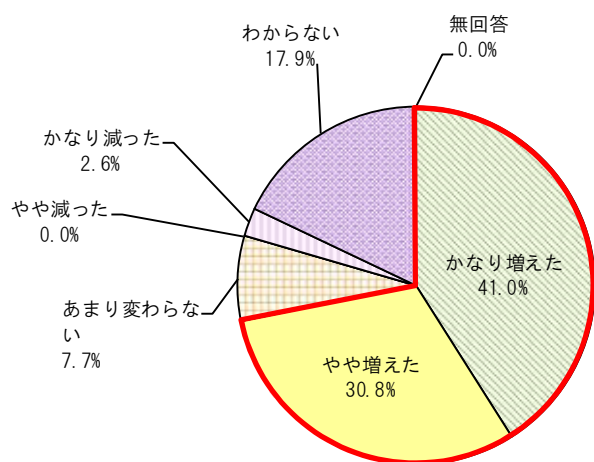
【域内調達率（n=39）】



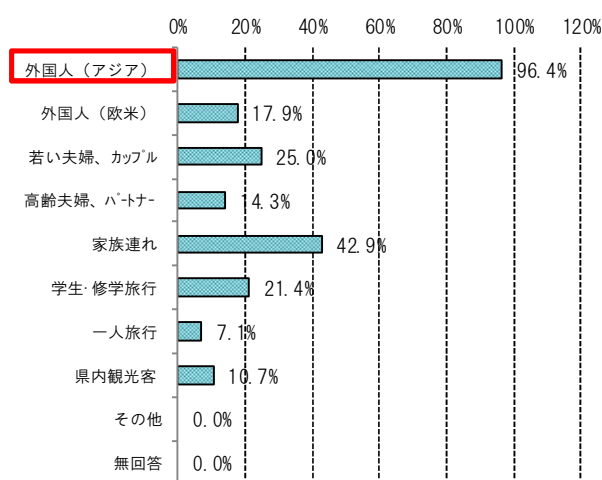
②観光の現状

- ・ここ10年程度で観光客が「増えた」と感じる事業者が約7割（特にアジア系）
- ・今後は、「家族連れ」や「高齢夫婦」「県内観光客」を増やしたい意向
- ・事業者から見た観光客の交通手段の9割がレンタカーであり、約4割が観光バス利用
- ・観光客に向けた取り組みでは外国語対応を中心にキャッシュレス化や人材確保を課題と認識
- ・観光客による経済効果は回答者の5割以上が「実感がある」と回答しており、特に売上の増加や観光客の増加に経済効果を認識

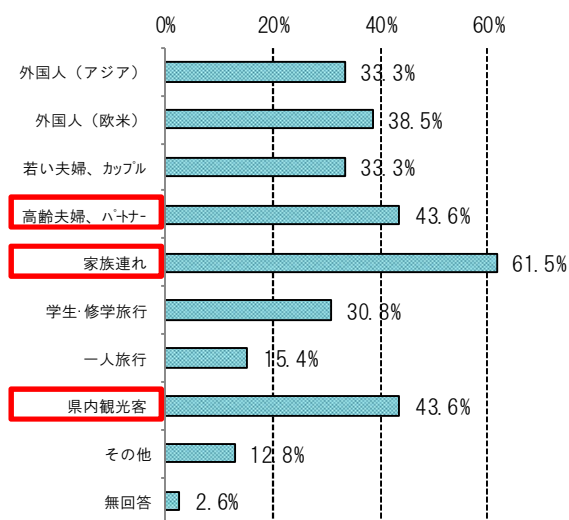
【10年前と比較した観光客の変化（n=39）】



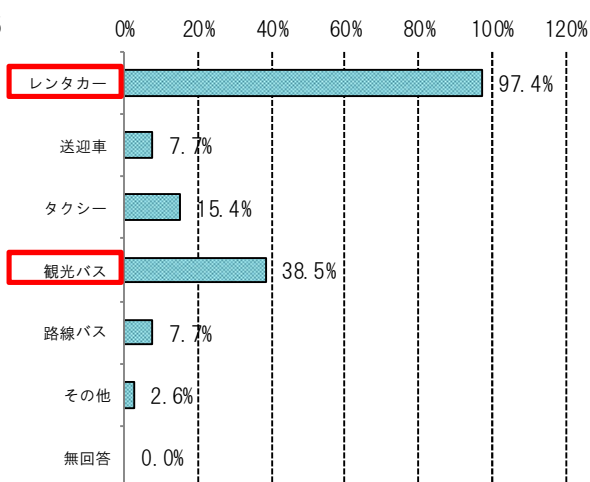
【特に増えたと感じる観光客（n=66）】



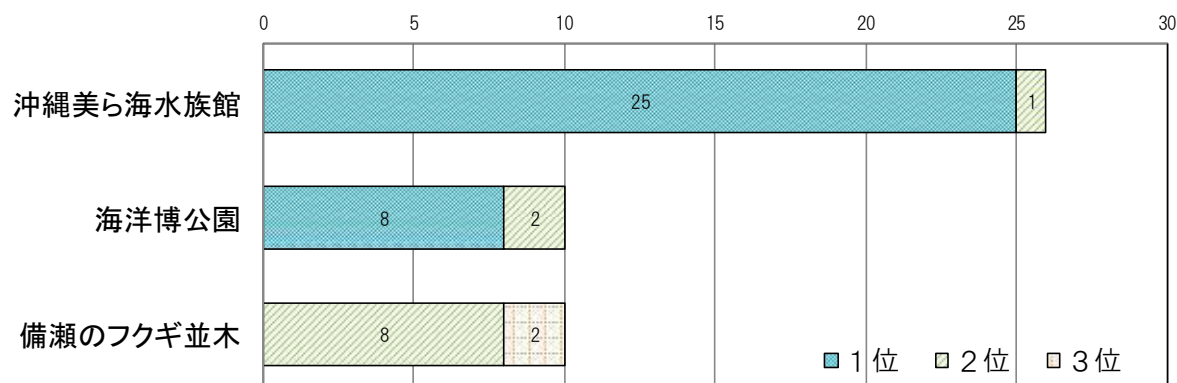
【今後増やしたい観光客層（n=123）】



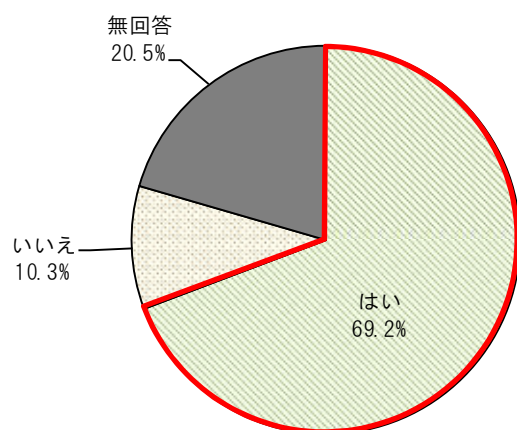
【観光客がよく利用する交通手段（n=66）】



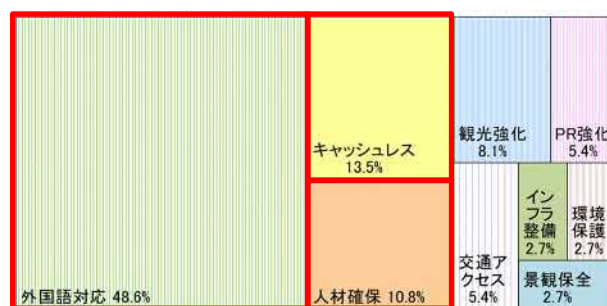
【観光客に人気の場所・コト（上位3件）（n=92）】



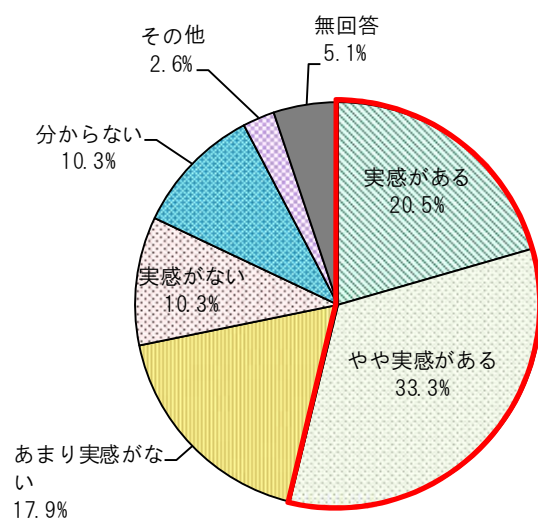
【観光客に向けた取組みに課題を感じるか（n=39）】



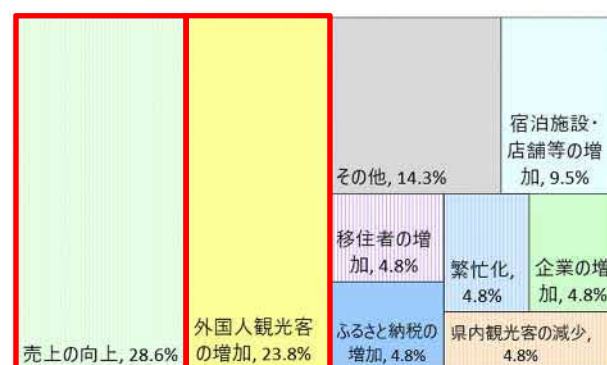
【どのような課題か（n=37）】



【観光客の増加による経済効果（n=39）】



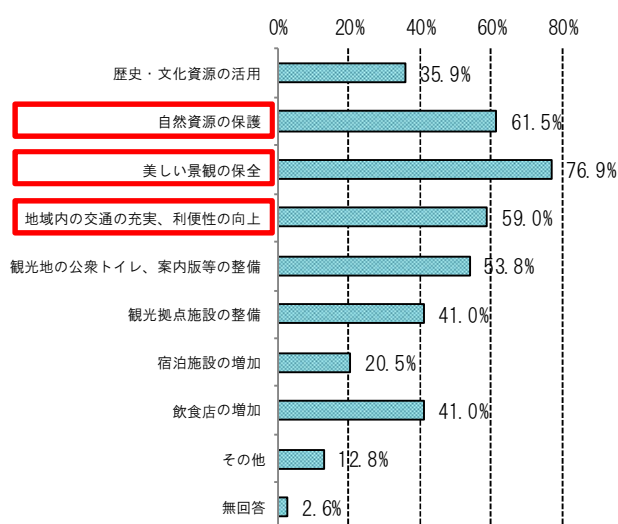
【経済効果を感じること（n=21）】



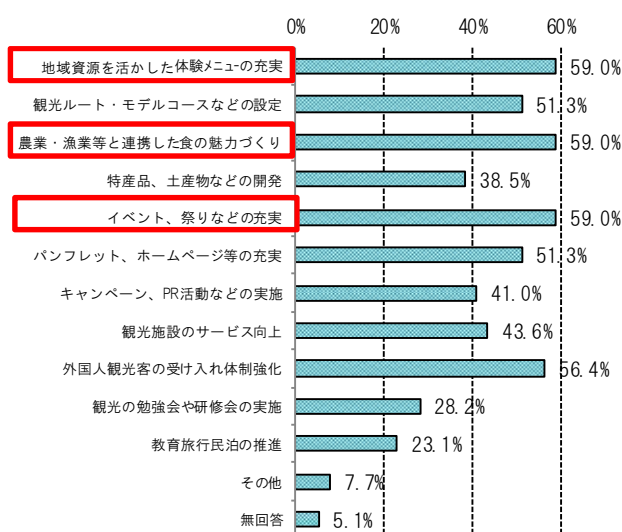
③今後の取組み

- ・ハード面では「景観の保全」の他「自然資源の保護」「地域内の交通充実」が5割以上となっており、豊富な自然環境の活用とともに交通環境整備が期待されている
- ・ソフト面では全般的に関心が高く、特に「体験メニューの充実」「食の魅力づくり」「イベント、祭り等の充実」が約6割となっており、観光客の集客と消費の増加に向けた取組みが期待されている
- ・事業者として協力できることは、「地域の美化活動」「観光資源の保全・維持」が5割以上、「観光施策への積極的な参画」も4割以上となっており、観光地の景観形成とともにその為の施策への協力にも積極的な姿勢がうかがえる

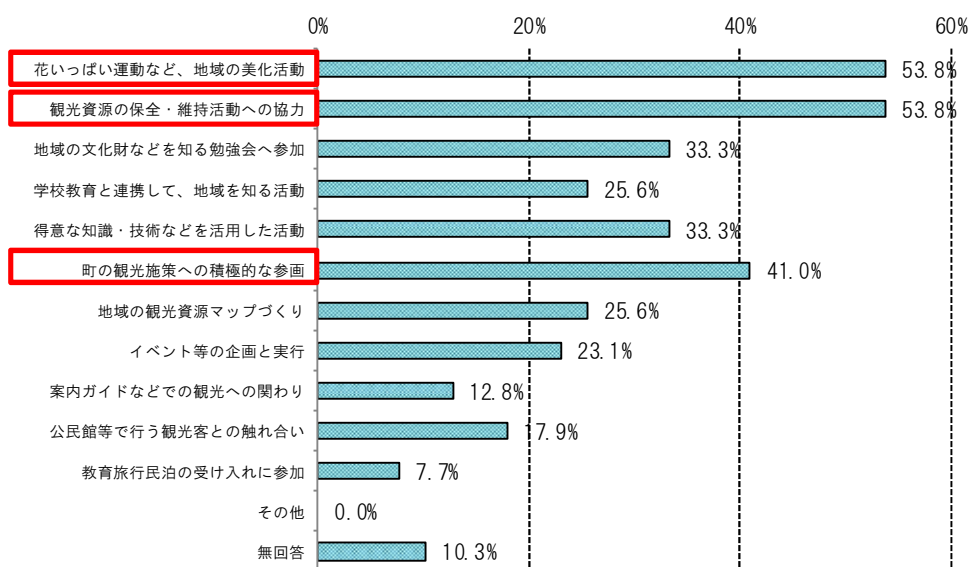
【環境保全・施設整備(ハード)の取組み (n=158)】



【イベント等(ソフト)の開発・支援(n=204)】



【事業者として協力できること (n=132)】



6 町民意見交換会

本部町の観光まちづくりに関する町民の意見を把握するため、町民意見交換会を実施した。調査概要及び調査結果は以下のとおりである。

(1) 実施概要

【町民意見交換会実施概要】

調査目的	○観光まちづくりに関する町民の意見を広く収集
参加対象	○本部町在住・在勤・在学の方、本部町内の事業者の方
実施日時	○令和元年11月12日(火) 19:00-21:00(第1回) ○令和元年12月10日(火) 19:00-21:00(第2回)
実施場所	○本部町会館
テーマ	○本部町の魅力・活かし方について(第1回) ○本部町の将来の姿について(第2回)

(2) 第1回意見交換会結果

① もとぶ観光の魅力

自然	・海と山が両方ある ・生態系が優れている、貴重な植物がある ・八重岳山脈、カルスト地形 ・置かれている環境に山、海、集落が揃っている
文化	・芸能、民謡 ・年間通した地域行事
食	・そば

② もとぶ観光の心配事

観光客	・観光スポットが不足 ・飲食店が少ない ・夜が暗いイメージ ・交通、移動における渋滞
地域・住民	・地域へ及ぼす影響、オーバーツーリズム ・地元が魅力を知らない ・人口減少
宿泊業・観光資源	・宿泊業の過剰供給 ・他地域の観光資源の影響、競合 ・観光防災

③ もとが観光の今後の取組み（必要なこと）

観光地の取組み	・体験メニューづくり ・滞在型の観光 ・PR 活動、商品開発
まちの整備	・飲食店整備 ・街灯の設置 ・移動手段
地元への還元・配慮	・稼げる観光 ・地元の雇用 ・ルールづくり
町民意識の共有	・町民との魅力共有 ・目標の共有
市場調査	・地元と観光客の期待 ・リピーターの声

④ 観光客受け入れの際に大事にしたいこと

自然景観	自然の美しさ、将来の子供たちのために残す
おもてなし	笑顔、おもてなし、また来たいと思ってもらえるまち
連携・つながり	人と人とのつながり、宿泊との連携
町民が住みたいと思えるまち	地元の思いを大切に、一生住みたいまちに
地元が稼ぐ	地域でお金を回す

(3) 第2回意見交換会結果

目指す将来の姿1	テーマ1「住民と観光客が共に楽しめるまち」 ・住民が生活するうえで「快適」 ・天候に左右されない観光 ・住民と観光客が会話する機会、仕組み
必要な取組み	(町民) ・海外の方と話せるアプリ等でコミュニケーションを行う (事業者) ・「記憶に残る観光」の提供 ・子供同士の繋がりや体験 ・本部産食品の試食 ・SNS を活用したイベント告知 (行政) ・観光まちづくりに関する指針を明確にする
目指す将来の姿2	テーマ2「何度も訪れたくなるまち」 ・観光客が帰ってきたくなるまち ・地域住民による声掛けがあるまち ・海の自然でリラックスができるまち ・一人一人に合わせた「カスタマイズ観光」
必要な取組み	(町民) ・町民が本部町について知る (事業者) ・アプリにおいて、イベント情報の発信、参加 ・行政の取組みに興味を持つ (行政) ・「本部町アプリ」の作成 ・美ら海水族館までの沿道や街灯の整備 ・情報の整理

7 地域資源マップ



出典：本部町観光ガイドマップを基に加工編集

8 用語集

用語	説明
インバウンド	外から中に入ってくる意味を表し、一般的に訪日外国人旅行のこと
レンタカー プローブ調査	レンタカーに位置情報を記録できるプローブ機器を設置し、どこからどこへ、いつ、どのような経路移動したかという交通行動について調査するもの
もとぶ観光文化	海、山の自然の恵みと固有の文化に根ざしつつ、自然の摂理はもとより、人間性を大切にする姿勢を基調とした観光によって創出された文化
プロモーション	消費者の物を買いたいという購買意欲を喚起するための活動。広告、販売促進、PR（宣伝活動、広報活動）など
コラボレーション	複数の立場や人によって行われる協力・連携・共同作業
Wi-fi	無線でインターネットに接続する技術のこと
キャッシュレス	クレジットカードや電子マネー、口座振替を利用して、紙幣・硬貨といった現金を使わずに支払い・受け取りを行う決済方法
ニューツーリズム	従来の旅行とは異なり旅行先での人や自然との触れ合いが重要視された新しいタイプの旅行を指す。テーマとしてグリーンツーリズム、ブルーツーリズム、ヘルスツーリズム等を含む
グリーンツーリズム	農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動
ブルーツーリズム	海部の漁村や離島に滞在し、魅力的で充実した海辺での生活体験を通じて、心と体をリフレッシュさせる余暇活動
ヘルスツーリズム	地域健康資源を活用した健康増進につながる旅行・観光
インターネット メディア	インターネットを通じて、不特定多数を対象に情報を発信するコミュニケーションの媒体
地域ブランド	地域発の商品・サービスのブランド化と、地域イメージのブランド化を結び付け、好循環を生み出し、地域外の資金・人材を呼び込むという持続的な地域経済の活性化を図ること
観光地域づくりの プラットフォーム	地域内の着地型旅行商品の提供者と市場（旅行会社、旅行者）をつなぐワンストップ窓口としての機能を担う事業体
免税店	外国人旅行者等の非居住者に対して特定の物品を一定の方法で販売する場合に、消費税を免除して販売できる店舗のこと
二次交通	複数の交通機関等を使用する場合の、2種類目の交通機関
民泊	一般の民家や空き家・空室などを宿泊施設として利用すること
PDCAサイクル	Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Act（改善）を繰り返すことによって、管理業務を円滑に進める方法

9 計画策定協議会

計画策定に当たっては、町内の観光関連団体、有識者、行政機関のメンバーによって組成した「本部町観光振興基本計画策定協議会」の意見を聞きながら検討を実施した。

(1) 協議会委員

	氏名	役職名等
会長	當山 清博	一般社団法人 本部町観光協会 会長
副会長	松田 泰昭	本部町商工会 会長
委員	大谷 健太郎	名城大学 国際学群 観光産業専攻 上級准教授
委員	並里 力	沖縄美ら島財団 企画広報部 部長
委員	岸本 恵樹	一般社団法人 本部町観光協会 監事
委員	真栄田 正男	本部漁業協同組合 組合長
委員	伊佐 常雄	J Aおきなわ本部支店 支店長
委員	伊野波 盛二	本部町副町長

(2) 検討状況

	日時	議題
第1回	令和元年12月23日(月)	町の観光振興に関わる課題と方向性について
第2回	令和2年1月30日(木)	観光振興の目標及び施策について
第3回	令和2年3月2日(月)	観光振興基本計画の策定について